

平成29年度

男女共同参画についての
市民意識調査

報告書概要版

～村上市全体の結果について～

平成29年9月

村上市市民課生活人権室

目次

I 調査概要	1
1 調査方法	1
2 調査項目	1
3 回収結果	1
II 調査結果	2
1 回答者の属性	2
2 男女の平等感について	6
(1) 男女の地位の平等について	6
3 家庭・結婚生活について	8
(1) 家庭や結婚生活について	8
(2) 理想とする家庭内の仕事の分担	11
(3) 実際の家庭内の仕事の分担	13
(4) 男性が家事等に積極的に参加していくために必要なこと	15
4 就労について	16
(1) 理想の女性の働き方	16
(2) 現実の女性の働き方	17
(3) 現実と理想が違っている理由	18
(4) 女性が働く環境について	19
(5) 女性が働き続けるために必要なこと	21
5 教育について	22
(1) 学校生活の中で経験したこと	22
(2) 学校生活以外の場で経験したこと	23
6 地域活動等について	24
(1) 地域団体の役員に男性が多い原因	24
7 ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）について	25
(1) 希望のワーク・ライフ・バランス	25
(2) 現実の生活状況	26
(3) 男女が共に家事や子育て、地域活動に参画していくために必要なこと	27
8 暴力等について	28
(1) セクシュアル・ハラスメントについて	28
(2) 被害を受けたときの対応	29
(3) 相談しなかった理由	30
(4) ドメスティック・バイオレンスについて	31
(5) 被害を受けたときの相談経験の有無	32
(6) 被害を受けたときの相談先	33
(7) 相談しなかった理由	34
9 男女共同参画の推進について	35
(1) 法律や制度の認知度	35
(2) 男女共同参画社会推進のために、今後市が力を入れていくべきこと	38

I 調査概要

1 調査方法

- (1) 調査地域 村上市全域
- (2) 調査対象 村上市在住の満 20 歳以上の男女
- (3) 標本数 2,000 人
- (4) 標本抽出法 住民基本台帳より無作為抽出
- (5) 調査方法 郵送により調査票・返信用封筒を配布し、郵送により回収
- (6) 調査期間 平成 29 年夏期 (6 月～8 月)

2 調査項目

- (1) 回答者の属性
- (2) 男女の平等感について
- (2) 家庭・結婚生活について
- (3) 在宅介護について
- (4) 就労について
- (5) 教育について
- (6) 地域活動等について
- (7) ワーク・ライフ・バランス (仕事と生活の調和) について
- (8) 暴力等について
- (9) 男女共同参画の推進について
- (10) 自由記入の結果

3 回収結果

- (1) 有効回収票 838 票 (女性 452 票、男性 376 票、性別不明 10 票)
- (2) 有効回収率 41.9%

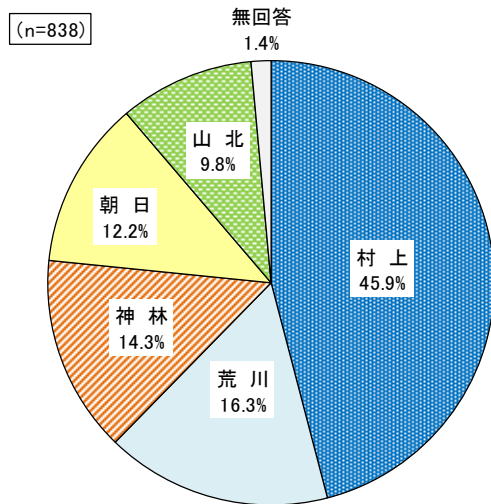
◇ 本報告書の利用にあたっての注意点

- 1. 本文及び図表中の回答者の割合は、百分比 (%) で表し、小数点以下第 2 位を四捨五入してある。そのため、総数と内訳の計が一致しない場合がある。
- 2. 図表中の「n (number of cases の略)」とは、回答者総数 (該当者質問では該当者数) のことで、100%が何人の回答に相当するかを示す比率算出の基数である。
- 3. 本文及び図表中、意味をそこなわない範囲で簡略化した選択肢がある。
- 4. 回答数が極端に少ない (概ねに 10 以下の) 属性については分析対象外とした。

Ⅱ 調査結果

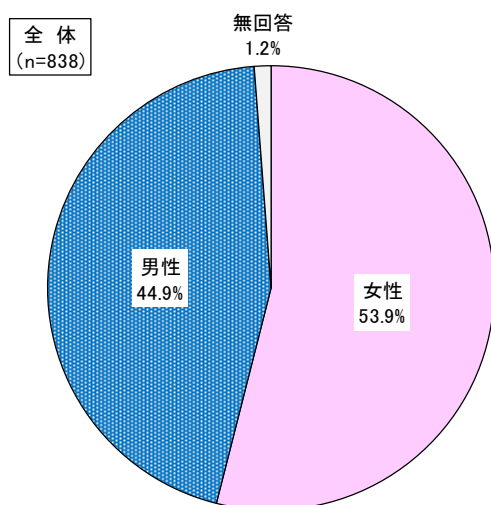
1 回答者の属性

F 1 あなたは、どの地区にお住まいですか。



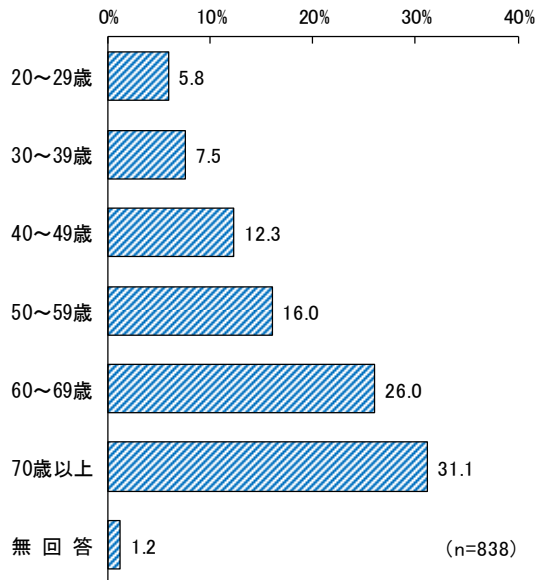
居住地域		
回答者総数	100.0%	(838人)
村上	45.9%	(385人)
荒川	16.3%	(137人)
神林	14.3%	(120人)
朝日	12.2%	(102人)
山北	9.8%	(82人)
無回答	1.4%	(12人)

F 2 あなたの性別を教えてください。



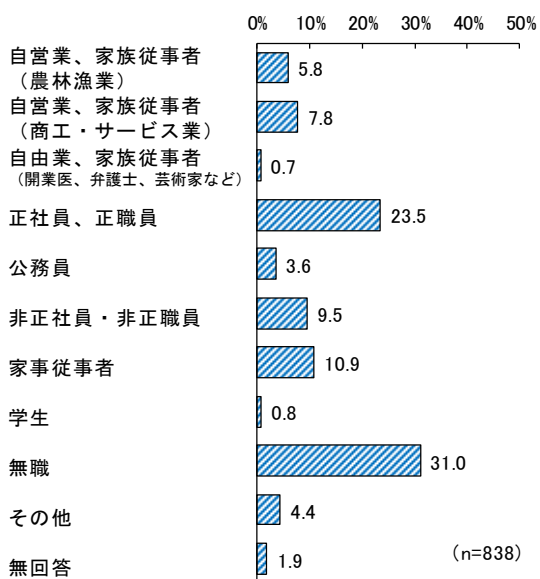
性別		
回答者総数	100.0%	(838人)
女性	53.9%	(452人)
男性	44.9%	(376人)
無回答	1.2%	(10人)

F 3 あなたの年齢を教えてください。



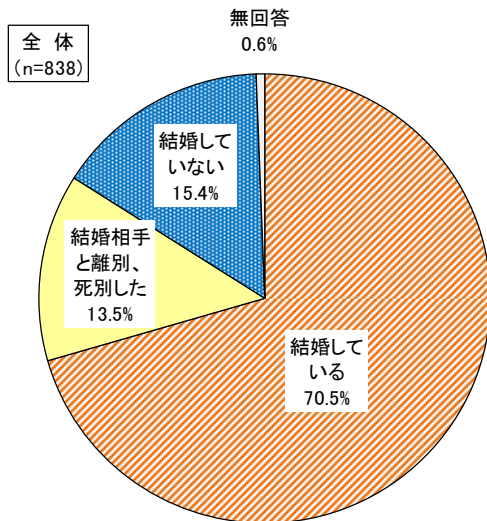
年 齢 別	
回答者総数	100.0% (838人)
20~29歳	5.8% (49人)
30~39歳	7.5% (63人)
40~49歳	12.3% (103人)
50~59歳	16.0% (134人)
60~69歳	26.0% (218人)
70歳以上	31.1% (261人)
無回答	1.2% (10人)

F 4 あなたの職業を教えてください。



職 業 別	
回答者総数	100.0% (838人)
自営業、家族従事者(農林漁業)	5.8% (49人)
自営業、家族従事者(商工・サービス業)	7.8% (65人)
自由業、家族従事者(開業医、弁護士、芸術家など)	0.7% (6人)
正社員、正職員	23.5% (197人)
公務員	3.6% (30人)
非正社員・非正職員	9.5% (80人)
家事従事者	10.9% (91人)
学生	0.8% (7人)
無職	31.0% (260人)
その他	4.4% (37人)
無回答	1.9% (16人)

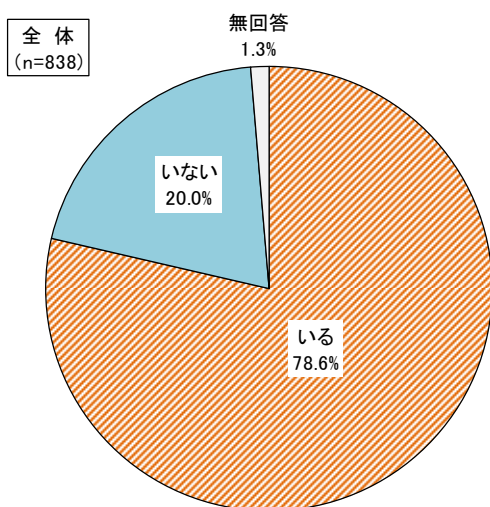
F 5 結婚（事実婚を含む）されていますか。



婚姻状況

回答者総数	割合	人数
結婚している	70.5%	(591人)
結婚相手と離別、死別した	13.5%	(113人)
結婚していない	15.4%	(129人)
無回答	0.6%	(5人)

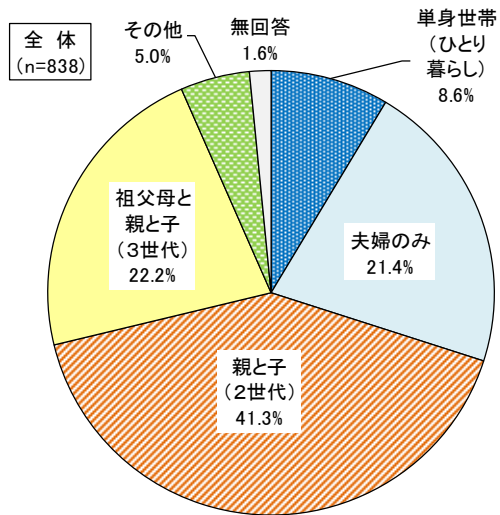
F 6 あなたにはお子さんがいますか。



子どもの有無

回答者総数	割合	人数
いる	78.6%	(659人)
いない	20.0%	(168人)
無回答	1.3%	(11人)

F 7 あなたのご家族の構成は、次のうちどれにあてはまりますか。



世帯構成		
回答者総数	100.0%	(838人)
単身世帯 (ひとり暮らし)	8.6%	(72人)
夫婦のみ	21.4%	(179人)
親と子 (2世代)	41.3%	(346人)
祖父母と親と子 (3世代)	22.2%	(186人)
その他	5.0%	(42人)
無回答	1.6%	(13人)

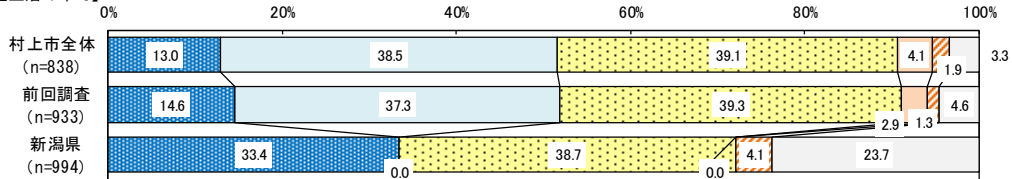
2 男女の平等感について

(1) 男女の地位の平等について

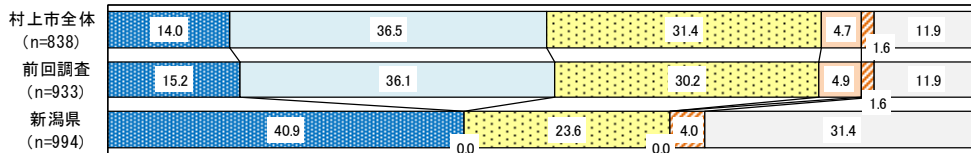
問1 あなたは、男女の地位の平等についてどのように思われますか。
それぞれの項目について、あなたの考えに最も近いものを選んでください。

■ 男性の方が優遇されている □ どちらかといえば男性の方が優遇されている □ 平等である □ どちらかといえば女性の方が優遇されている ■ 女性の方が優遇されている □ 無回答 (わからないを含む)

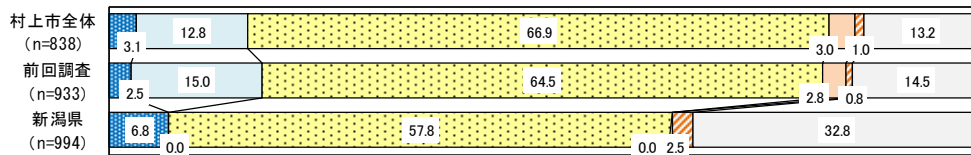
【ア】家庭生活の中で



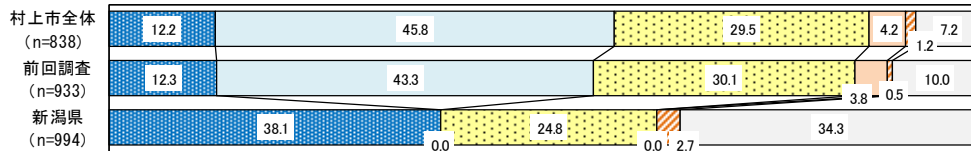
【イ】職場の中で



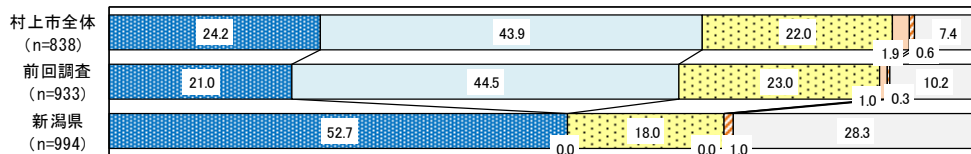
【ウ】学校教育の場で



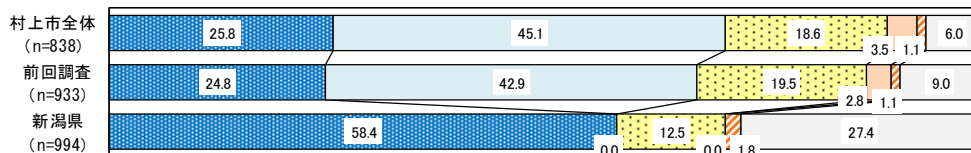
【エ】地域社会の中で



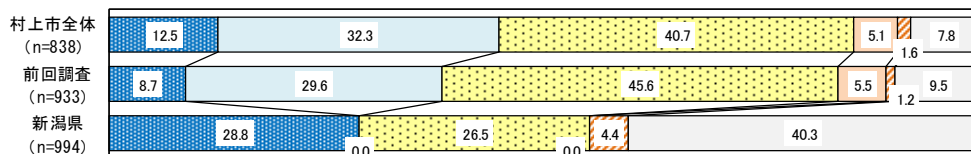
【オ】政治・経済活動の場で



【カ】慣習・しきたりで



【キ】法律や制度面で



※新潟県調査：選択肢に「どちらかといえば・・・」は設定されていない
選択肢に「わからない」を設定している

<全体結果>

男女の地位の平等感について7つの項目で調査した。

「男性の方が優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた『男性が優遇されている』計の割合は、【カ）慣習・しきたりで】で最も高く、7割を超えている。これに【オ）政治・経済活動の場で】が7割弱で続く。

一方、「平等である」と感じている項目は、【ウ）学校教育の場で】が7割弱で最も高く、『男性が優遇されている』計の割合を大きく上回っている。

		「男性が優遇されている」計	「女性が優遇されている」計
ア) 家庭生活の中で	村上市全体	51.6%	6.0%
	前回調査(平成27年度)	51.9%	4.2%
	新潟県(平成27年度)	33.4%	4.1%
イ) 職場の中で	村上市全体	50.5%	6.2%
	前回調査(平成27年度)	51.3%	6.5%
	新潟県(平成27年度)	40.9%	4.0%
ウ) 学校教育の場で	村上市全体	15.9%	3.9%
	前回調査(平成27年度)	17.5%	3.5%
	新潟県(平成27年度)	6.8%	2.5%
エ) 地域社会の中で	村上市全体	58.0%	5.4%
	前回調査(平成27年度)	55.6%	4.3%
	新潟県(平成27年度)	38.1%	2.7%
オ) 政治・経済活動の場で	村上市全体	68.1%	2.5%
	前回調査(平成27年度)	65.5%	1.3%
	新潟県(平成27年度)	52.7%	1.0%
カ) 慣習・しきたりで	村上市全体	70.9%	4.5%
	前回調査(平成27年度)	67.6%	3.9%
	新潟県(平成27年度)	58.4%	1.8%
キ) 法律や制度面で	村上市全体	44.9%	6.7%
	前回調査(平成27年度)	38.3%	6.6%
	新潟県(平成27年度)	28.8%	4.4%

◆前回調査の全体結果と比較して傾向変化がみられたのは…

⑥ 慣習・しきたりで

前回調査と比べると、『男性が優遇されている』計の割合はやや増加している。

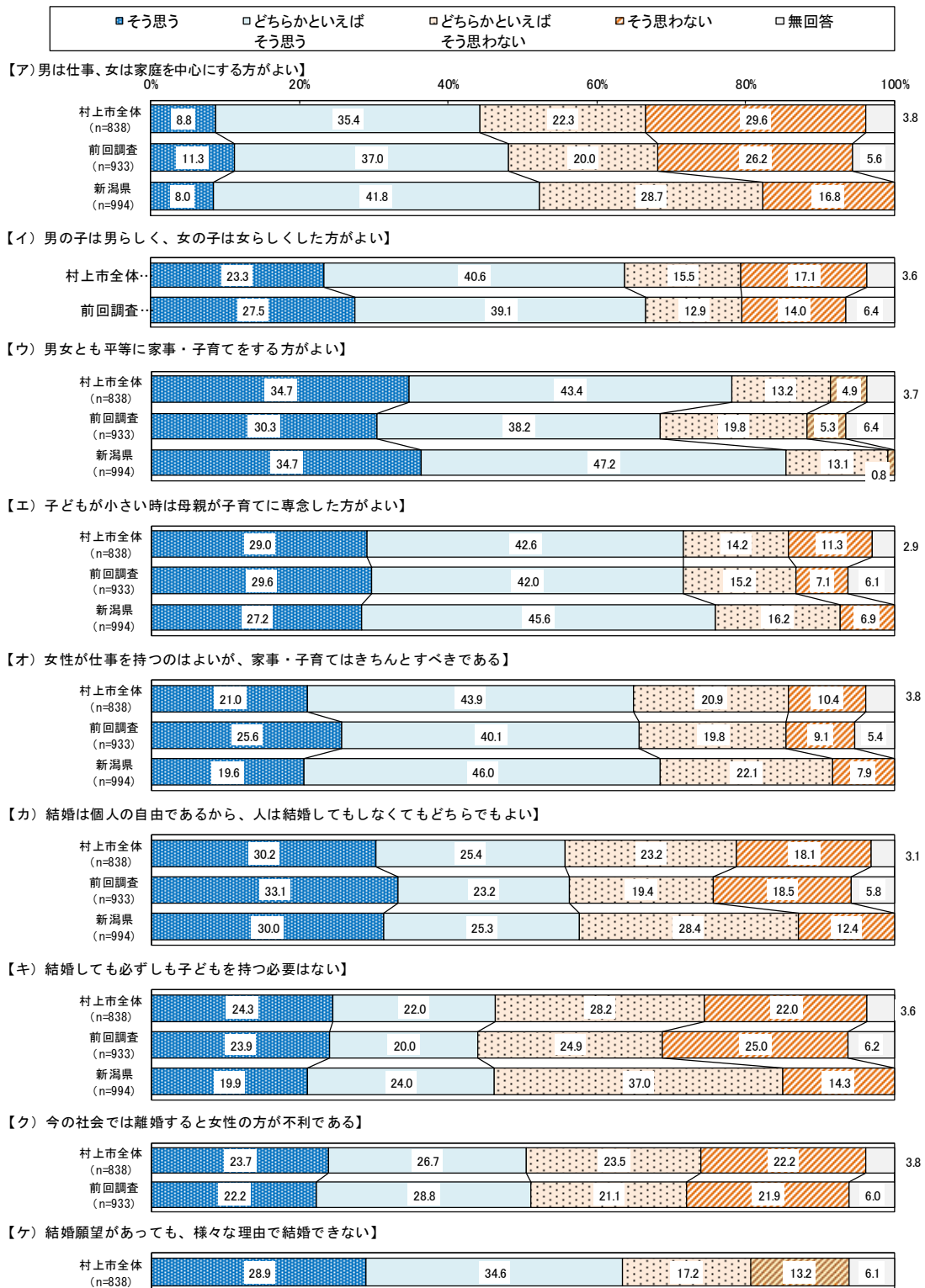
⑦ 法律や制度の面で

前回調査と比べると、『男性が優遇されている』計の割合は6.5ポイント増加し、「平等である」と感じている人は、4.9ポイント減少している。

3 家庭・結婚生活について

(1) 家庭や結婚生活について

問2 あなたの家庭のことや結婚などに対する考え方についておたずねします。
あなたの考え方に最も近いものをお選びください。



<全体結果>

家庭や結婚生活について9つの項目で調査した。

「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『思う』計の割合をみると、【ウ）男女とも平等に家事・子育てをする方がよい】が最も高く、8割弱となっている。以下、【エ）子どもが小さい時は母親が子育てに専念した方がよい】が7割台、【オ）女性が仕事を持つのはよいが、家事・子育てはきちんとすべきである】、【イ）男の子は男らしく、女の子は女らしくした方がよい】、【ケ）結婚願望があっても、様々な理由で結婚できない】が6割台、【カ）結婚は個人の自由であるから、人は結婚してもしなくてもどちらでもよい】と【ク）今の社会では離婚すると女性の方が不利である】が5割台、【キ）結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない】と【ア）男は仕事、女は家庭を中心にする方がよい】が4割台で続いている。

【ア）男は仕事、女は家庭を中心にする方がよい】と【キ）結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない】の2項目は、「思わない」と「どちらかといえばそう思わない」を合わせた『思わない』計の割合が、『思う』計の割合を上回っている。

		「思う」計	「思わない」計
ア) 男は仕事、 女は家庭を中心にする方がよい	村上市全体	44.3%	51.9%
	前回調査(平成27年度)	48.2%	46.2%
	新潟県(平成27年度)	49.8%	45.5%
イ) 男の子は男らしく、 女の子は女らしくした方がよい	村上市全体	63.8%	32.6%
	前回調査(平成27年度)	66.7%	26.9%
	新潟県(平成27年度)	78.2%	18.1%
ウ) 男女とも平等に 家事・子育てをする方がよい	村上市全体	78.2%	18.1%
	前回調査(平成27年度)	68.5%	25.1%
	新潟県(平成27年度)	81.9%	13.9%
エ) 子どもが小さい時は母親が子育てに 専念した方がよい	村上市全体	71.6%	25.5%
	前回調査(平成27年度)	71.6%	22.3%
	新潟県(平成27年度)	72.8%	23.1%
オ) 女性が仕事を持つのはよいが、 家事・子育てはきちんとすべきである	村上市全体	64.9%	31.3%
	前回調査(平成27年度)	65.7%	28.9%
	新潟県(平成27年度)	65.6%	30.0%
カ) 結婚は個人の自由であるから、 人は結婚してもしなくても どちらでもよい	村上市全体	55.6%	41.3%
	前回調査(平成27年度)	56.3%	37.9%
	新潟県(平成27年度)	55.3%	40.8%
キ) 結婚しても必ずしも 子どもを持つ必要はない	村上市全体	46.3%	50.1%
	前回調査(平成27年度)	43.9%	49.8%
	新潟県(平成27年度)	43.9%	51.3%
ク) 今の社会では離婚すると 女性の方が不利である	村上市全体	50.5%	45.7%
	前回調査(平成27年度)	51.0%	43.0%
ケ) 結婚願望があっても、 様々な理由で結婚できない	村上市全体	63.5%	30.4%

◆前回調査や新潟県調査の全体結果と比較して、傾向差異がみられたのは…

① 男は仕事、女は家庭を中心にする方がよい

『思う』計の割合は、新潟県の結果より低く、『思わない』計の割合は、新潟県より高くなっている。

② 男の子は男らしく、女の子は女らしくした方がよい

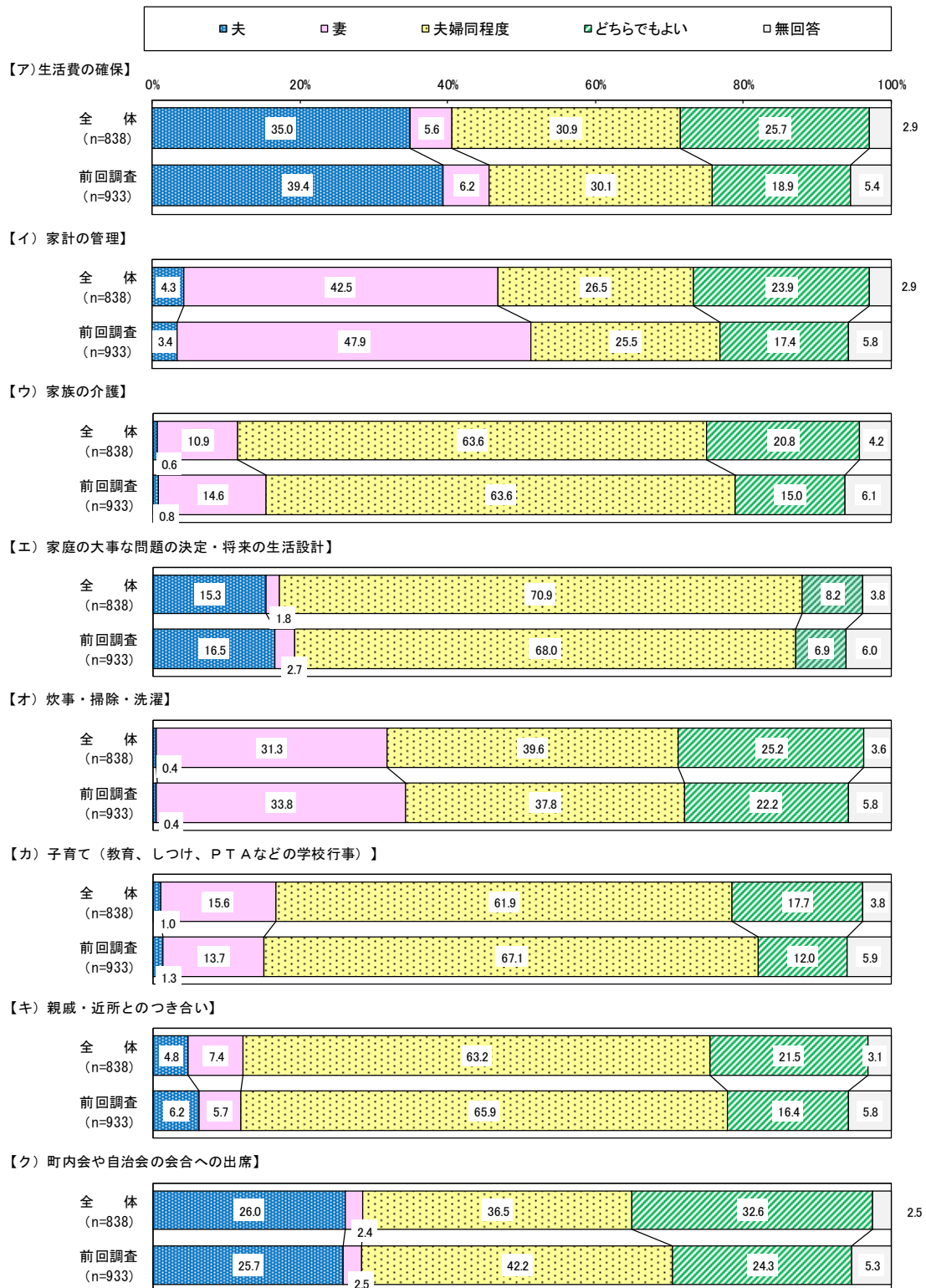
前回調査と比べると、『思わない』計の割合は、5.7ポイント増加している。

③ 男女とも平等に家事・子育てをする方がよい

前回調査と比べると、『思う』計の割合は、9.6ポイント増加している。

(2) 理想とする家庭内の仕事の分担

問3① 次の家庭内の仕事について、夫婦でどのように分担するのが理想だと思いますか。



＜全体結果＞

理想とする家庭内の仕事の分担について8つの項目で調査した。

【ア）生活費の確保】では、「夫」の割合が高く、【イ）家計の管理】では「妻」の割合が高く、その他の6項目は「夫婦同程度」の割合が高くなっている。

前回調査と比べると、【カ）子育て（教育、しつけ、PTAなどの学校行事）】と【ク）町内会や自治会の会合への出席】で「夫婦同程度」の割合が減少し、「どちらでもよい」の割合が増加している。

◆前回調査の全体結果と比較して、傾向変化がみられたのは…

① 生活費の確保

前回結果と比べ、「どちらでもよい」の割合が増加している。

② 家計の管理

前回結果と比べ、「妻」の割合が減少し、「どちらでもよい」の割合が増加している。

⑥ 子育て（教育、しつけ、PTAなどの学校行事）

前回結果と比べ、「夫婦同程度」の割合が減少し、「どちらでもよい」の割合がやや増加している。

⑦ 親戚・近所とのつき合い

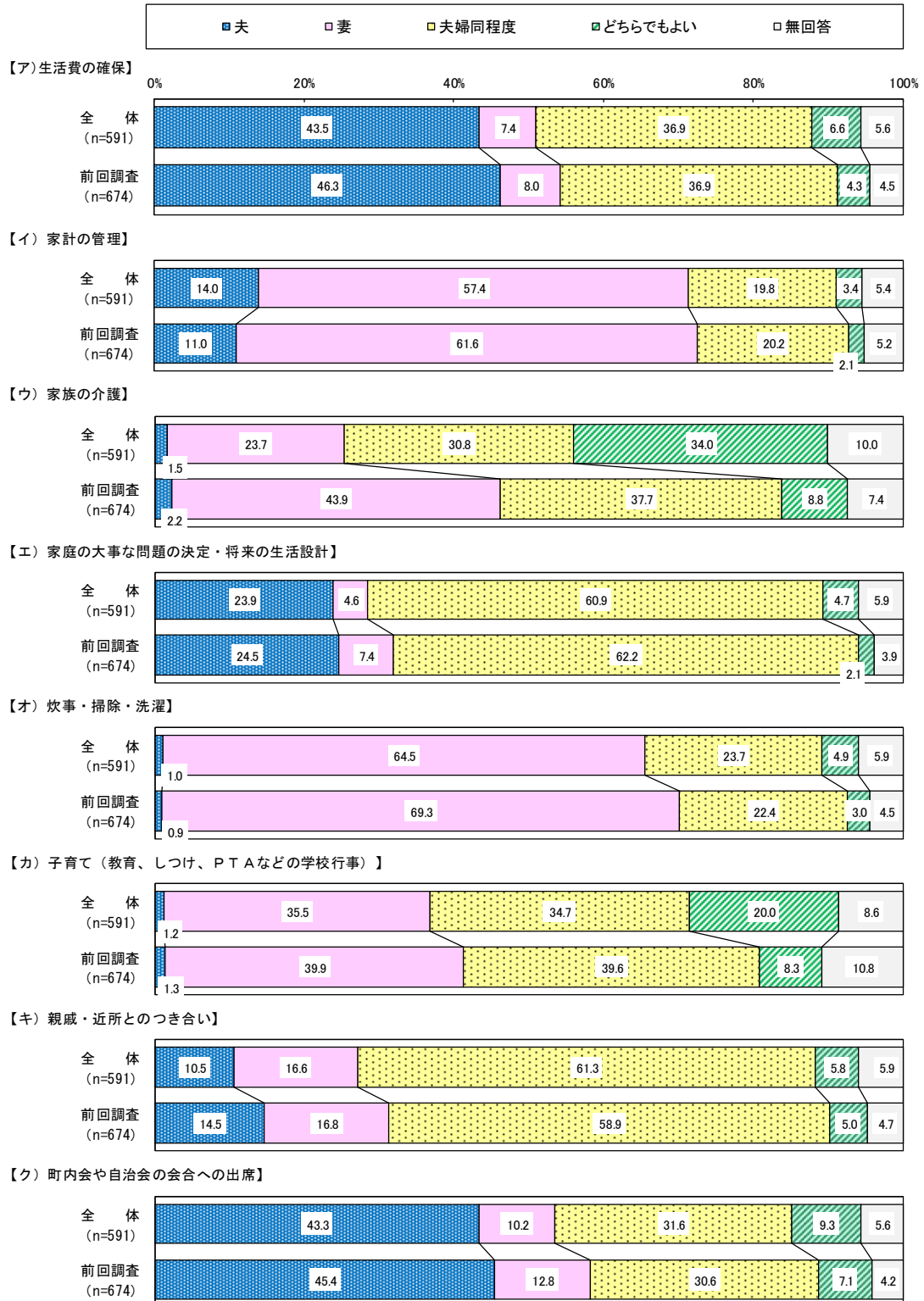
前回結果と比べ、「どちらでもよい」の割合が増加している。

⑧ 町内会や自治会の会合への出席

前回結果と比べ、「どちらでもよい」の割合が増加し、「夫婦同程度」の割合が低下している。

(3) 実際の家庭内の仕事の分担

問3② 現在、結婚（事実婚を含む）している方におたずねします。
 実際に、あなたの家庭では、次の家庭内の仕事を夫婦でどのように分担していますか。



＜全体結果＞

現在結婚している女性を対象に、実際の家庭内の仕事の分担について8つの項目で調査した。

【ア）生活費の確保】と【ク）町内会や自治会の会合への出席】では、「夫」の割合が高く、【イ）家計の管理】と【オ）炊事・掃除・洗濯】と【カ）子育て（教育、しつけ、PTAなどの学校行事）】では「妻」の割合が高く、【ウ）家族の介護】では「どちらでもよい」の割合が高く、【エ）家庭の大事な問題の決定・将来の生活設計】と【キ）親戚・近所とのつき合い】では「夫婦同程度」の割合が高くなっている。

前回調査と比べると、【ウ）家族の介護】と【カ）子育て（教育、しつけ、PTAなどの学校行事）】で「どちらでもよい」の割合が大きく増加している。

◆前回調査の全体結果と比較して、傾向変化がみられたのは…

② 家計の管理

前回結果と比べ、「妻」の割合がやや減少している。

③ 家族の介護

前回結果と比べ、「妻」と「夫婦同程度」は減少し、「どちらでもよい」が大きく増加している。

⑤ 炊事・掃除・洗濯

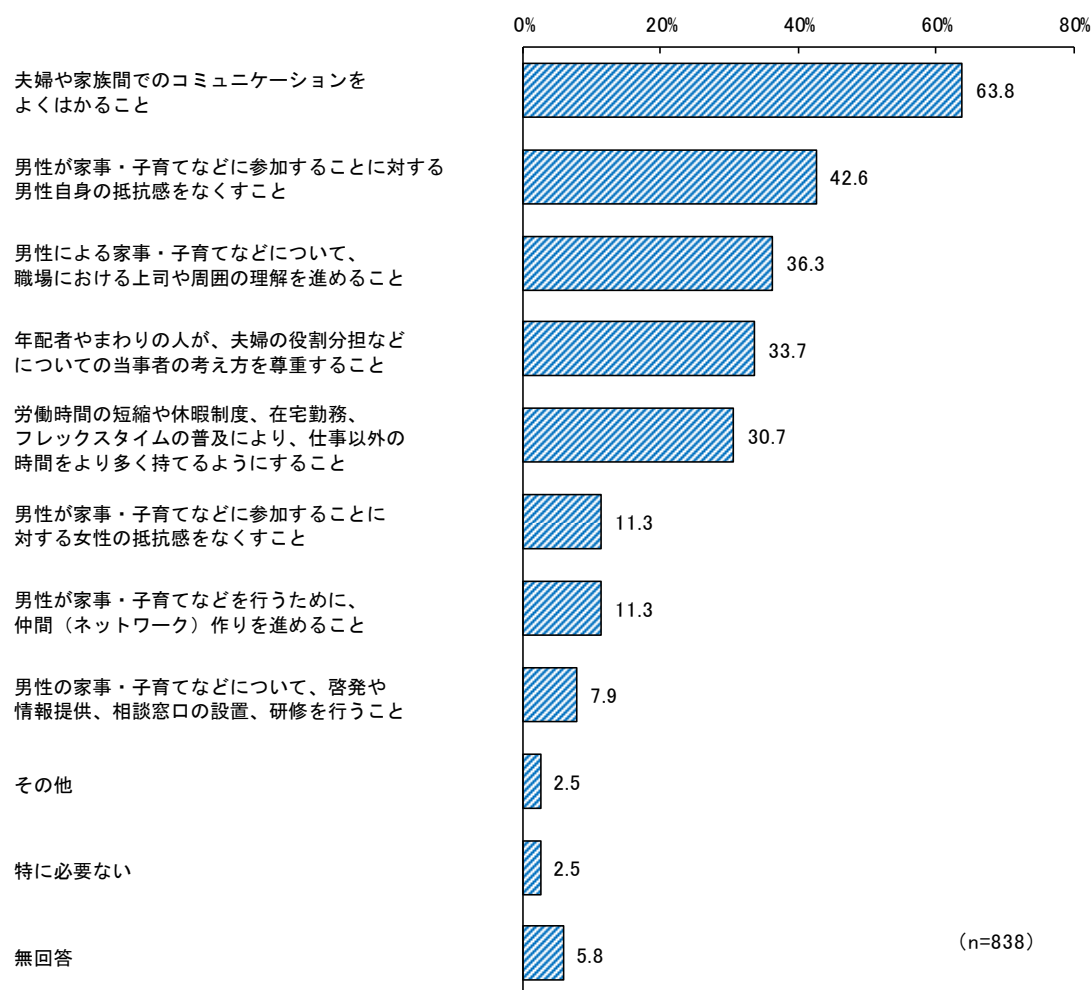
前回結果と比べ、「妻」の割合がやや低下している。

⑥ 子育て（教育、しつけ、PTAなどの学校行事）

前回結果と比べ、「夫」と「夫婦同程度」の割合がやや減少し、「どちらでもよい」の割合が大きく増加している。

(4) 男性が家事等に積極的に参加していくために必要なこと

問4 男性が家庭内で家事・子育てに積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。



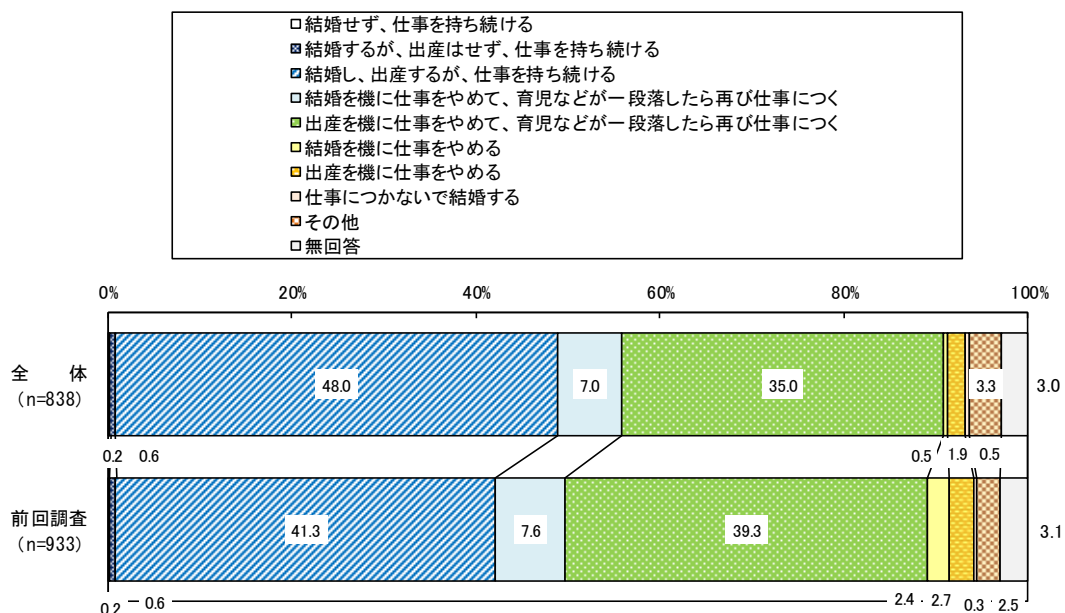
<全体結果>

男性が家事等に積極的に参加していくために必要なことは、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」が最も多く、6割強の人がこれを回答した。次いで、「男性が家事・子育てなどに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」が4割台、「男性による家事・子育てなどについて、職場における上司や周囲の理解を進めること」、「年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担などについての当事者の考え方を尊重すること」、「労働時間の短縮や休暇制度、在宅勤務、フレックスタイムの普及により、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」が3割台で続いている。

4 就労について

(1) 理想の女性の働き方

問5① あなたは、女性はどのような働き方をしていくのが『理想』だと思いますか。



<全体結果>

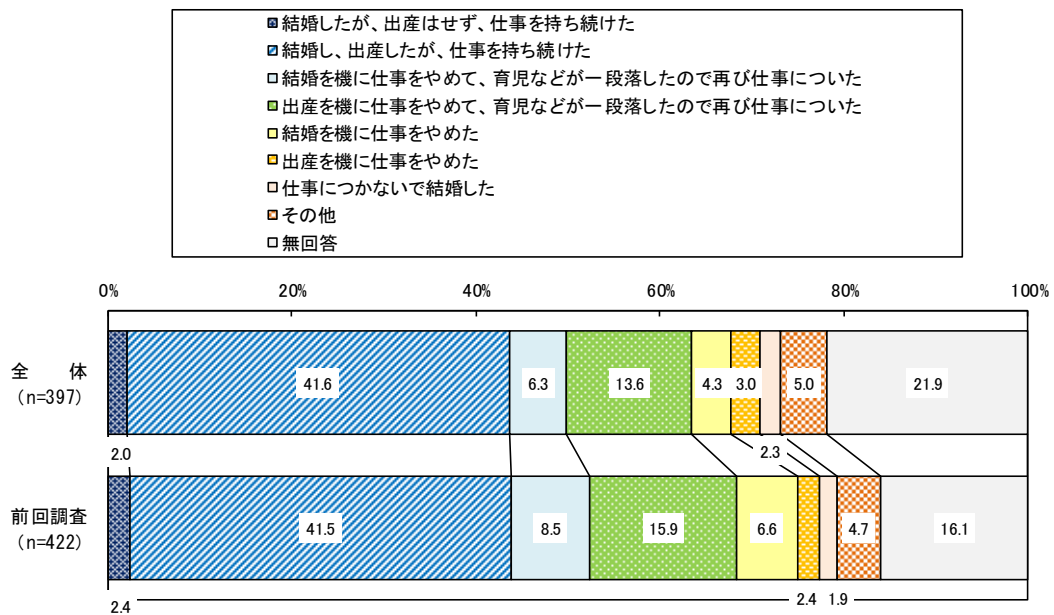
理想の女性の働き方については、「結婚し、出産するが、仕事を持ち続ける」が半数弱で最も多く、次いで「出産を機に仕事をやめて、育児などが一段落したら再び仕事につく」が3割台となっている。

前回調査と比べると、「結婚し、出産するが、仕事を持ち続ける」の割合は増加している。

(2) 現実の女性の働き方

問5② 現在結婚（事実婚を含む）している女性の方または結婚相手と離別、死別した女性の方におたずねします。

『現実』に、あなたはどのような働き方をしていますか。



<全体結果>

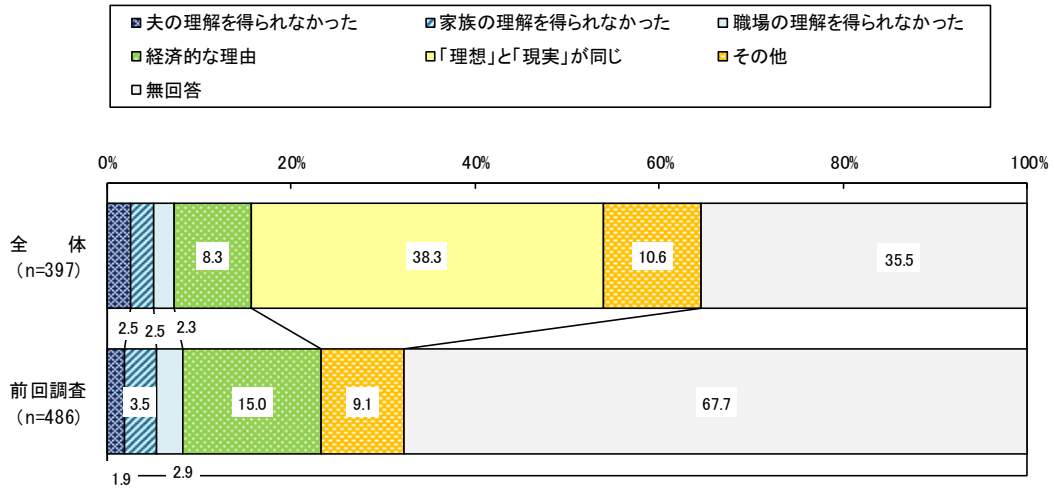
現在結婚している女性を対象に、現実の女性の働き方について調査した。

最も多く回答があったのは、「結婚し、出産したが、仕事を持ち続けた」で4割強となっている。次いで「出産を機に仕事をやめて、育児などが一段落したので再び仕事についた」が1割台となっている。

前回調査と比べると、特に大きな差は見られない。

(3) 現実と理想が違っている理由

問5③ 上記の問5②でお答えいただいた『現実』と問5①でお答えいただいた『理想』が違っている方におたずねします。
「理想」と「現実」が違っている理由について、次の中から最も近いものを選んでください。



<全体結果>

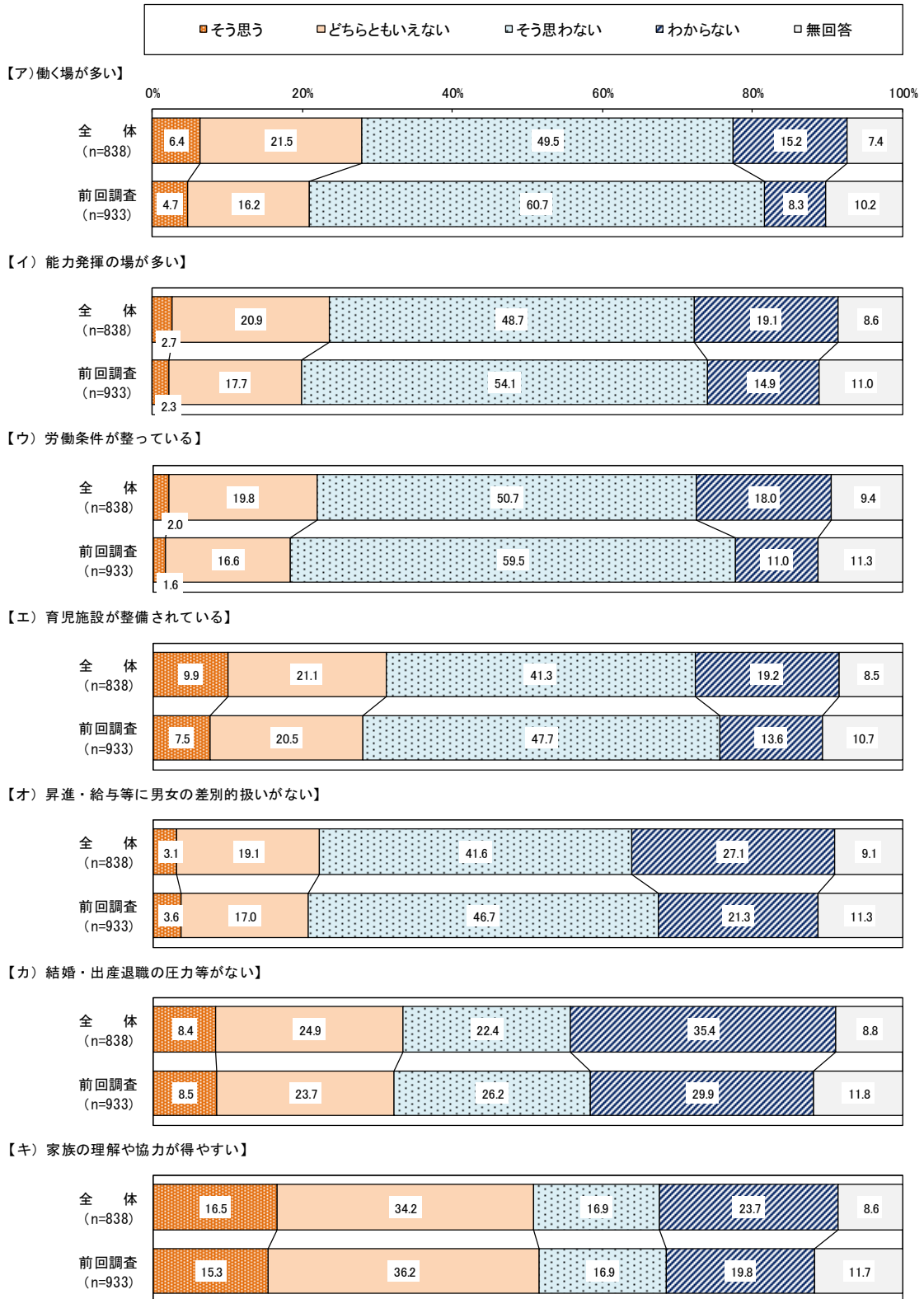
現実と理想が違っている人を対象に、その理由について調査した。

最も多く回答があったのは、「経済的な理由」だが、1割に満たない。「『理想』と『現実』が同じ」は4割弱となっている。

前回調査と比べると、「経済的な理由」が減少している。

(4) 女性が働く環境について

問6 あなたは、村上市を全般的にみて、女性が働く環境についてどう思いますか。



＜全体結果＞

女性が働く環境について7つの項目で調査した。

「そう思う」の割合をみると、【キ）家族の理解や協力が得やすい】が最も高く、2割弱となっている。

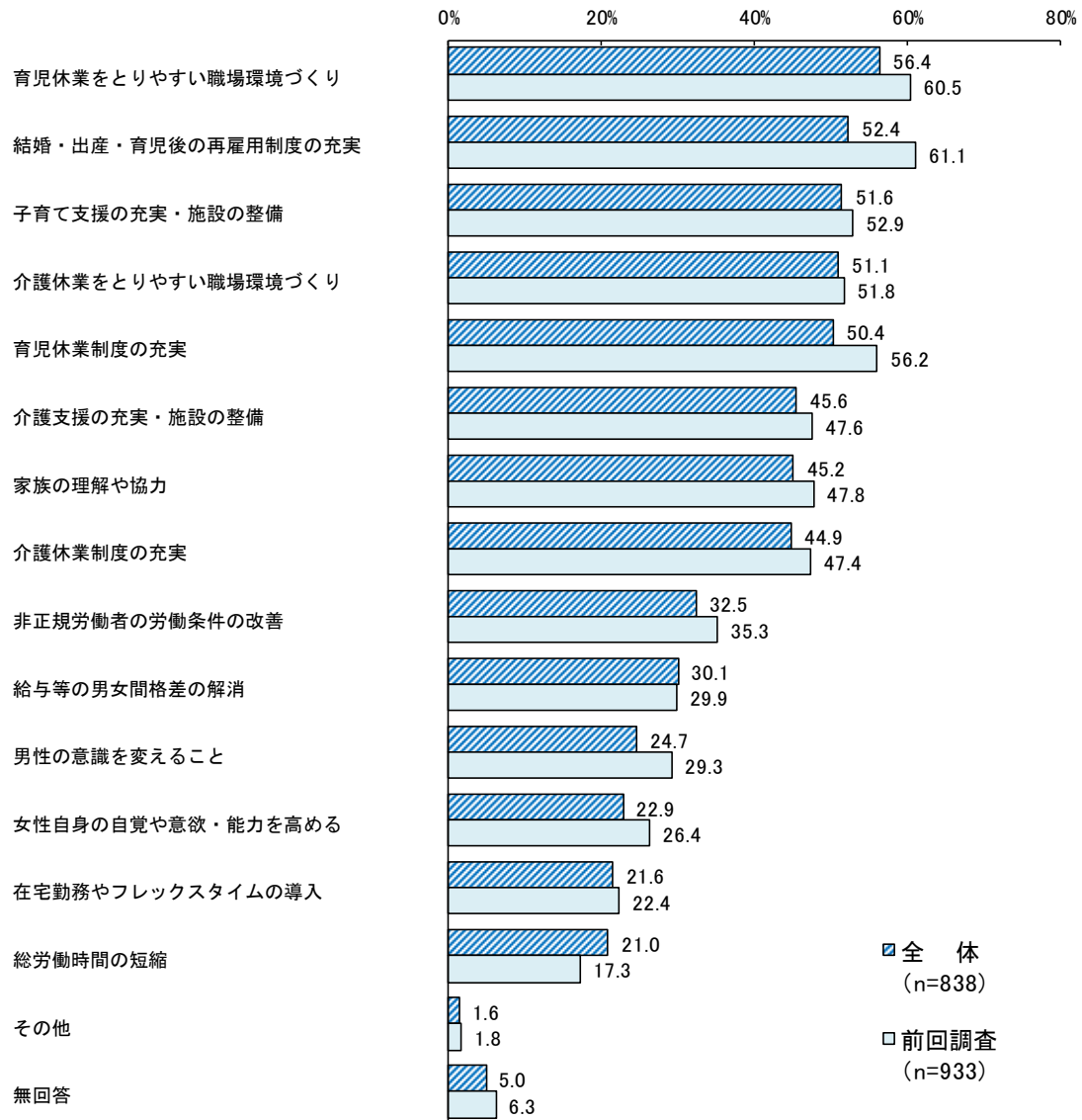
「そう思わない」の割合をみると、【ウ）労働条件が整っている】が半数強で最も高くなっている。【ア）働く場が多い】と【イ）能力発揮の場が多い】が半数弱で続いている。

◆前回調査の全体結果と比較して…

いずれの項目も「そう思わない」の割合は減少、もしくは同程度となっている。

(5) 女性が働き続けるために必要なこと

問7 あなたは、女性が働き続けるためには、今後どのようなことが必要だと思いますか。



<全体結果>

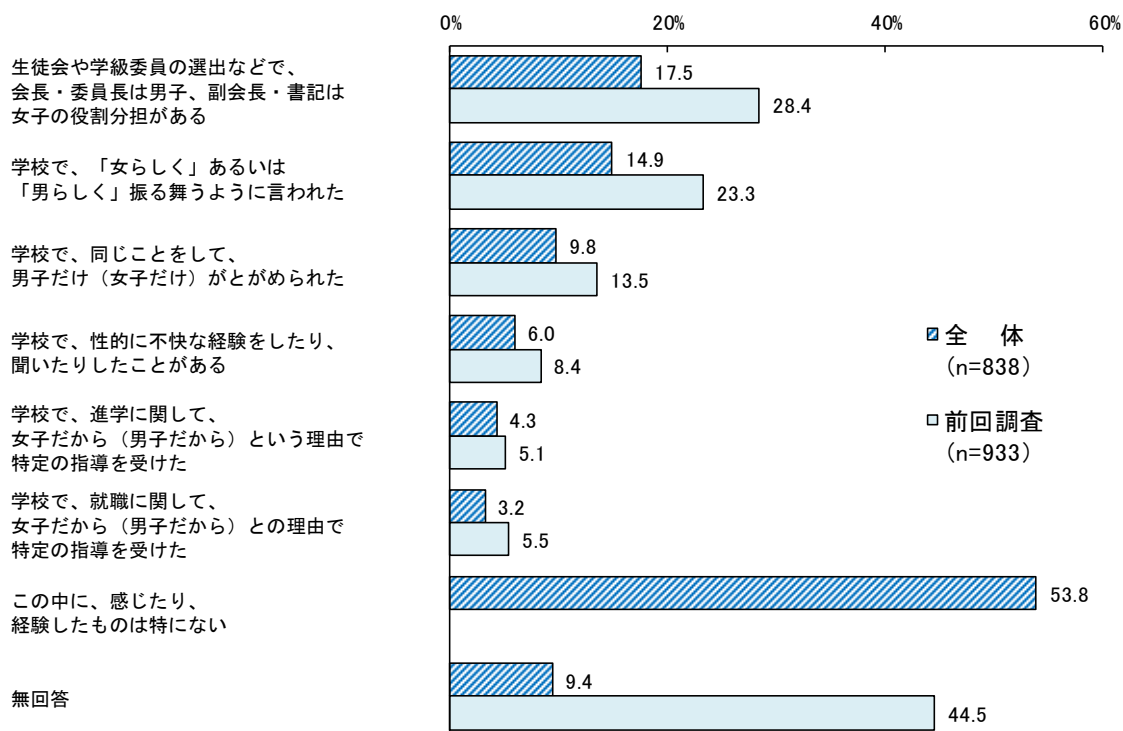
女性が働き続けるために必要なこととして、「育児休業をとりやすい職場環境づくり」をあげた人が最も多く、6割弱の人がこれを回答した。以下、「結婚・出産・育児後の再雇用制度の充実」、「子育て支援の充実・施設の整備」、「介護休業をとりやすい職場環境づくり」、「育児休業制度の充実」が5割台、「介護支援の充実・施設の整備」、「家族の理解や協力」、「介護休業制度の充実」が4割台などとなっている。

前回調査と比べると、「給与等の男女間格差の解消」と「総労働時間の短縮」を除いた項目で割合が減少しており、中でも「結婚・出産・育児後の再雇用制度の充実」では8.7ポイント減少している。

5 教育について

(1) 学校生活の中で経験したこと

問8① あなたは、学校生活の中で、次のようなことを経験したことがありますか。
次の中から選んでください。



<全体結果>

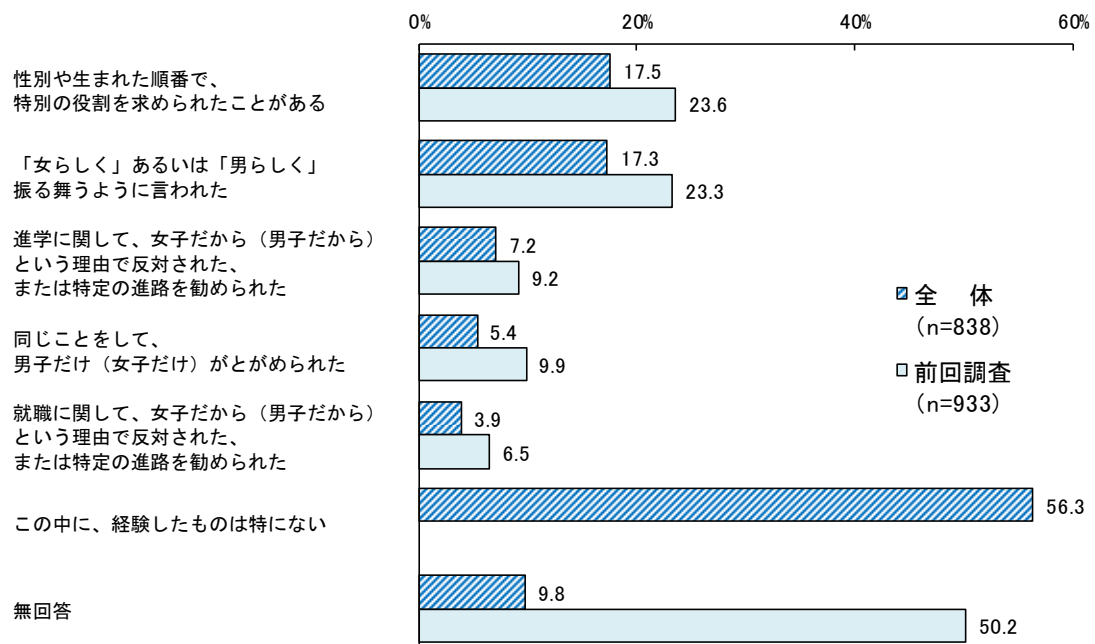
学校生活の中で経験したこととして、「生徒会や学級委員の選出などで、会長・委員長は男子、副会長・書記は女子の役割分担がある」をあげる人が最も多く、2割弱となっている。「学校で、『女らしく』あるいは『男らしく』振る舞うように言われた」が1割台で続いている。

「この中に、感じたり、経験したものは特にない」の割合は、5割強となっている。

前回調査と比べると、全ての項目で割合が低く、「生徒会や学級委員の選出などで、会長・委員長は男子、副会長・書記は女子の役割分担がある」では10ポイント以上下回っている。

(2) 学校生活以外の場で経験したこと

問8② あなたは、学校生活以外の場（家庭や身のまわり）で、次のようなことを経験したことがありますか。次の中から選んでください。



<全体結果>

学校生活以外の場で経験したこととして、「性別や生まれた順番で、特別の役割を求められたことがある」をあげる人が最も多く、2割弱となっている。『女らしく』あるいは『男らしく』振る舞うように言われた」が僅差で続いている。

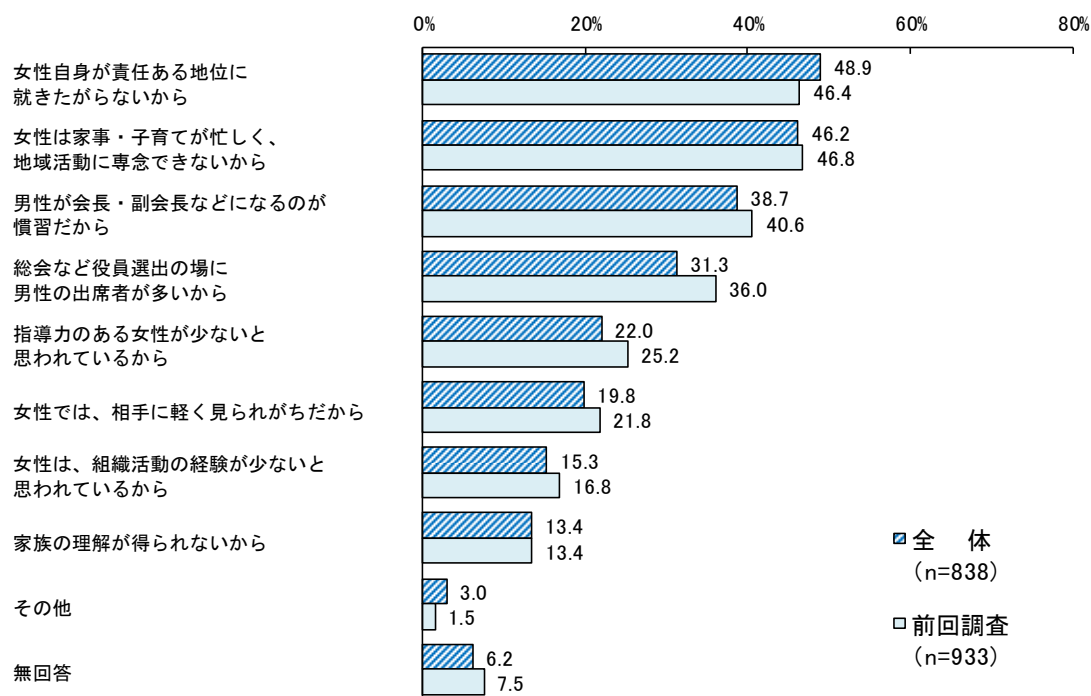
「この中に、経験したものは特にない」の割合は、6割弱となっている。

前回調査と比べると、全ての項目で割合が低く、「性別や生まれた順番で、特別の役割を求められたことがある」と『女らしく』あるいは『男らしく』振る舞うように言われた」では6ポイント下回っている。

6 地域活動等について

(1) 地域団体の役員に男性が多い原因

問9 PTAや町内会などの地域団体では、会長・副会長などの役員は男性が多いようです。その主な原因は何だと思えますか。



<全体結果>

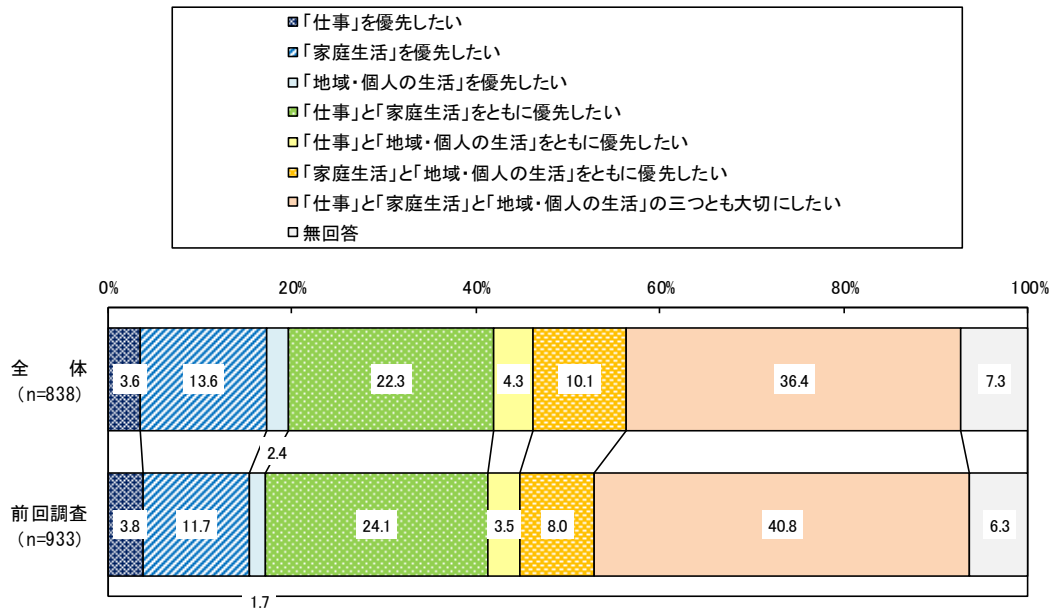
地域団体の役員に男性が多い原因として、「女性自身が責任ある地位に就きたがらないから」をあげる人が最も多く、5割弱となっている。以下、「女性は家事・子育てが忙しく、地域活動に専念できないから」が4割台、「男性が会長・副会長などになるのが慣習だから」と「総会など役員選出の場に男性の出席者が多いから」が3割台、「指導力のある女性が少ないと思われているから」が2割台で続いている。

前回調査と比べると、「女性自身が責任ある地位に就きたがらないから」を除いた項目で、割合が減少している。

7 ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）について

（1）希望のワーク・ライフ・バランス

問 10① 生活の中での、「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活（地域活動・学習・趣味・つき合い等）」について、あなたの希望に最も近いものを選んでください。



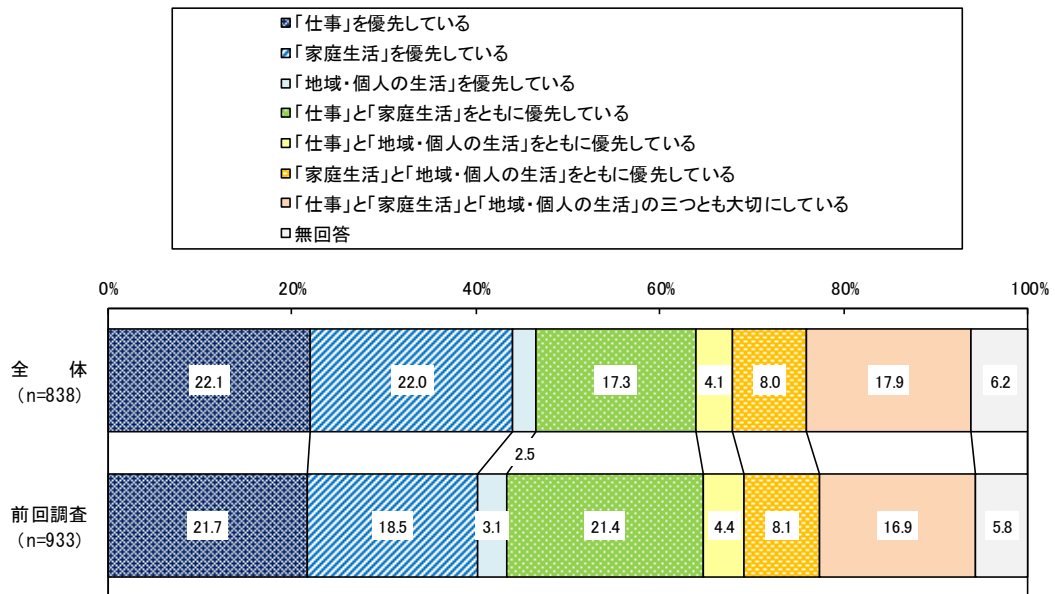
<全体結果>

希望のワーク・ライフ・バランスとしては、『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』の三つとも大切にしたいの割合が最も高く、4割弱となっている。次いで『仕事』と『家庭生活』をともに優先したいが2割強となっている。

前回調査と比べると、『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』の三つとも大切にしたいの割合は、やや減少している。

(2) 現実の生活状況

問 10② あなたの生活で、現実（現状）に最も近いものを選んでください。



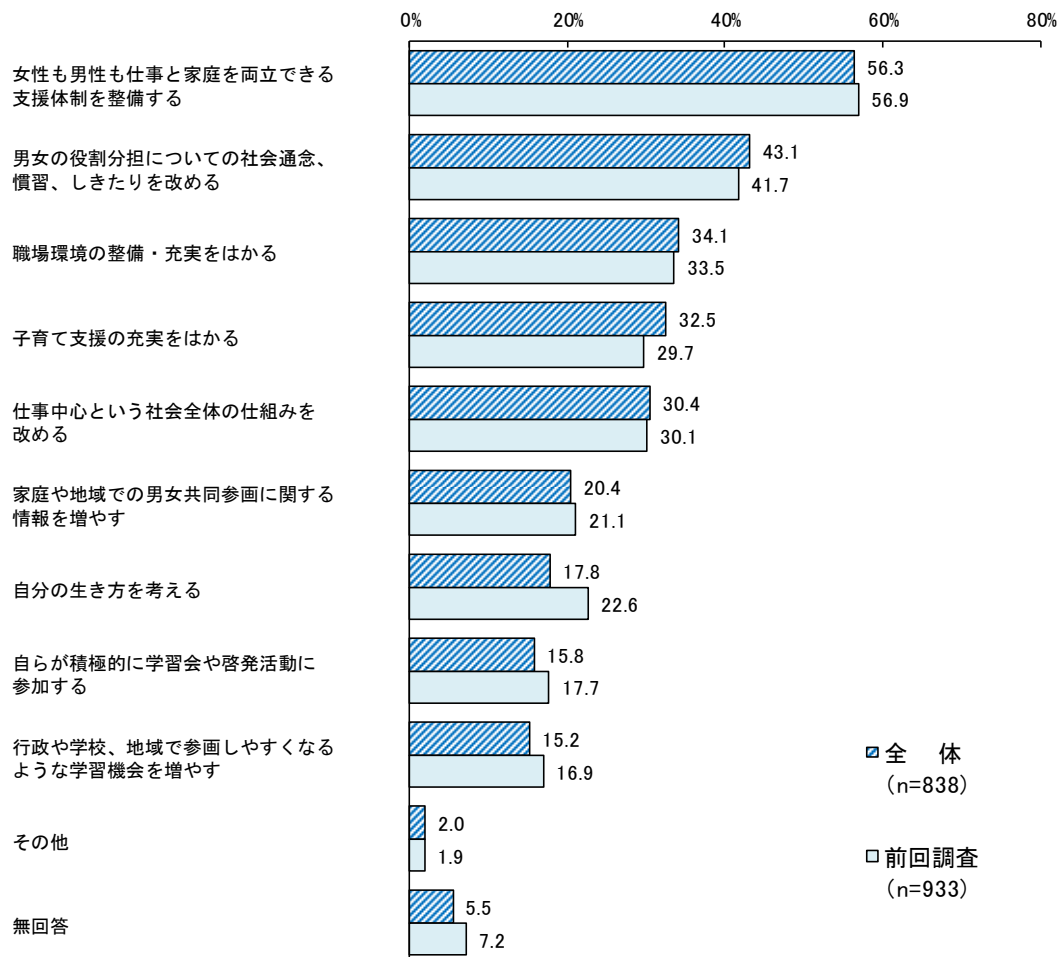
<全体結果>

現実の生活状況としては、「『仕事』を優先している」と「『家庭生活』を優先している」の割合が2割強となっている。以下、「『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』の三つとも大切にしている」と「『仕事』と『家庭生活』をともに優先している」が2割弱で続いている。

前回調査と比べると、「『仕事』と『家庭生活』をともに優先している」の割合が、やや減少している。

(3) 男女が共に家事や子育て、地域活動に参加していくために必要なこと

問 11 今後、男女がともに家事、子育てや教育、地域活動に積極的に参加していくために、どのようなことが必要だと思いますか。



<全体結果>

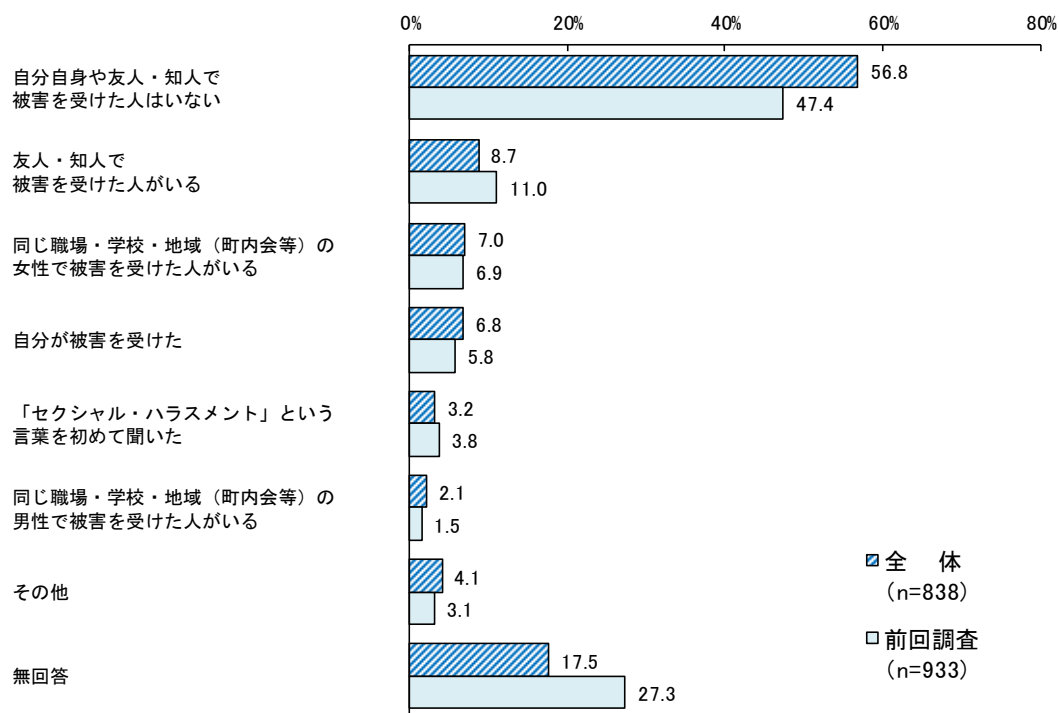
男女が共に家事や子育て、地域活動に参加していくためには、「女性も男性も仕事と家庭を両立できる支援体制を整備する」ことが必要と考える人が最も多く、6割弱となっている。以下、「男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改める」が4割台、「職場環境の整備・充実をはかる」、「子育て支援の充実をはかる」、「仕事中心という社会全体の仕組みを改める」が3割台、「家庭や地域での男女共同参加に関する情報を増やす」が2割台となっている。

前回調査と比べると、「自分の生き方を考える」はやや低下している。

8 暴力等について

(1) セクシュアル・ハラスメントについて

問 12① セクシュアル・ハラスメント（セクハラ）についてお答えください。



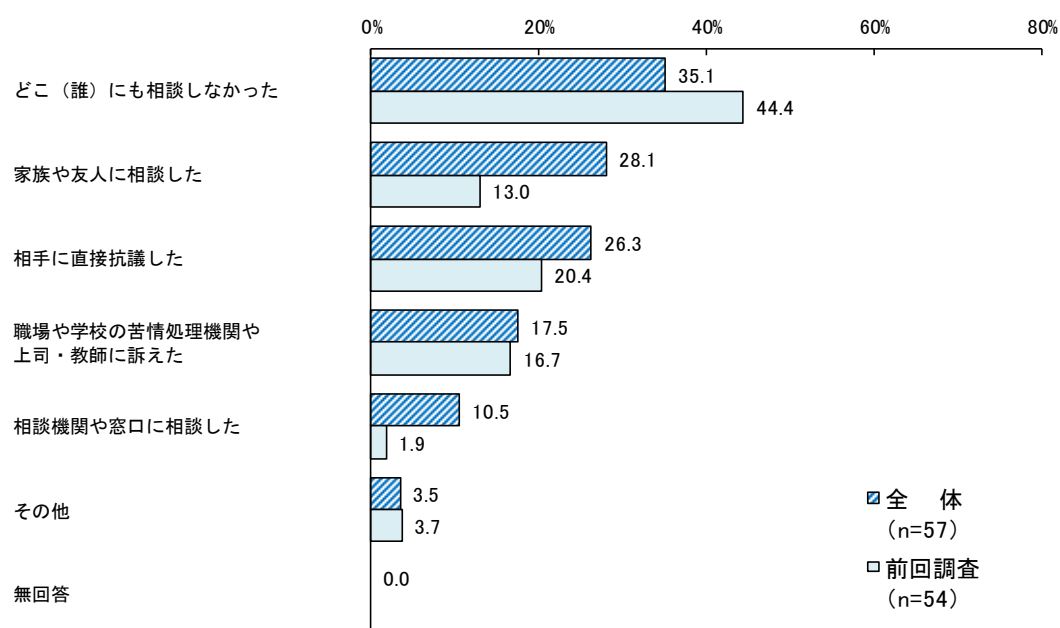
<全体結果>

セクシュアル・ハラスメントについて、「自分自身や友人・知人で被害を受けた人はいない」の割合が最も高く、6割弱となっている。

前回調査と比べると、「自分自身や友人・知人で被害を受けた人はいない」の割合が増加している。

(2) 被害を受けたときの対応

問 12② 問 12①で「自分が被害を受けた」と回答した方におたずねします。
被害を受けたときに、どのような対応をしましたか。



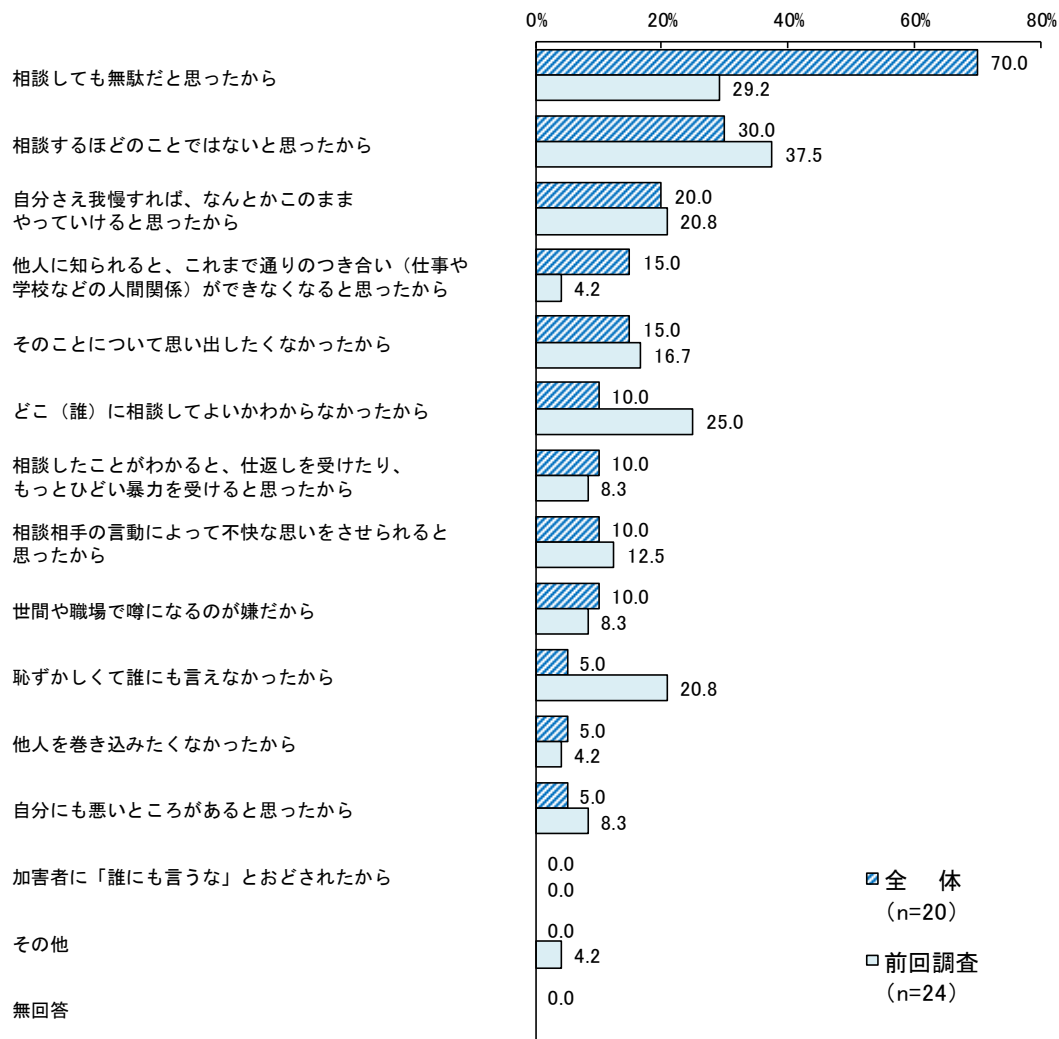
<全体結果>

被害を受けたときの対応として、「どこ（誰）にも相談しなかった」をあげる人が最も多く、3割台となっている。次いで「家族や友人に相談した」と「相手に直接抗議した」が3割弱、「職場や学校の苦情処理機関や上司・教師に訴えた」が2割弱となっている。

前回調査と比べて、「どこ（誰）にも相談しなかった」が大きく減少し、「家族や友人に相談した」、「相手に直接抗議した」、「相談機関や窓口に相談した」が増加している。

(3) 相談しなかった理由

問12③ 問12②で「どこ（誰）にも相談しなかった」と回答した方におたずねします。
相談しなかった理由は何ですか



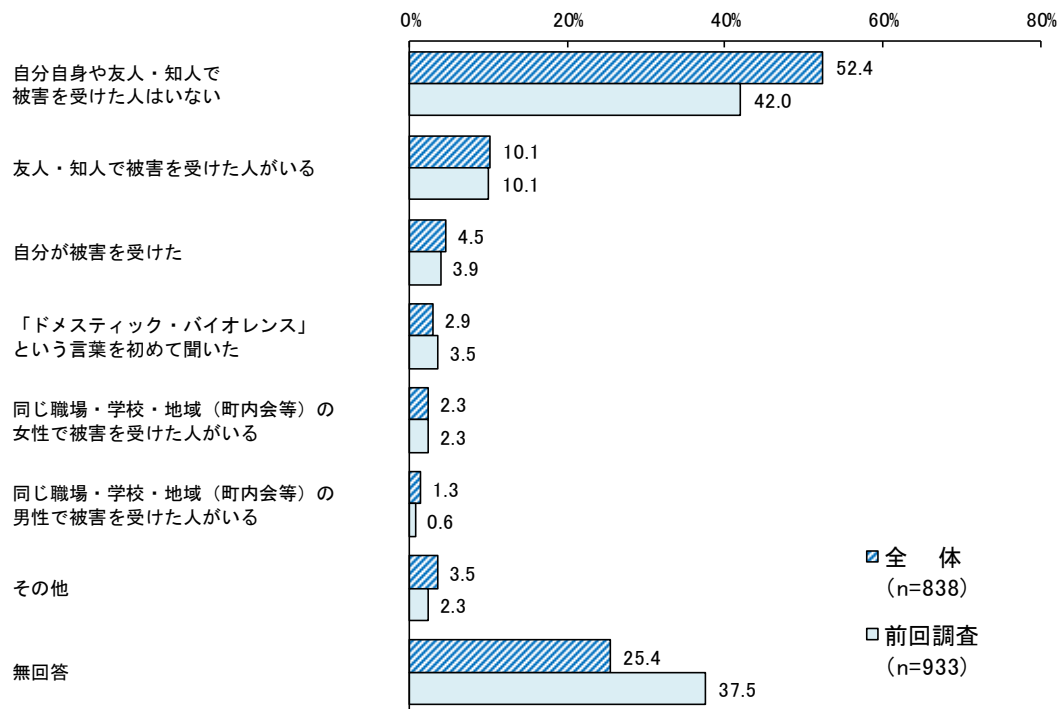
<全体結果>

どこ（誰）にも相談しなかった理由としては、「相談しても無駄だと思ったから」と考える人が最も多く、7割となっている。以下、「相談するほどのことではないと思ったから」が3割、「自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」が2割となっている。

前回調査と比べると、「相談しても無駄だと思ったから」が大きく増加している。

(4) ドメスティック・バイオレンスについて

問 13① ドメスティック・バイオレンス (DV) についてお答えください。



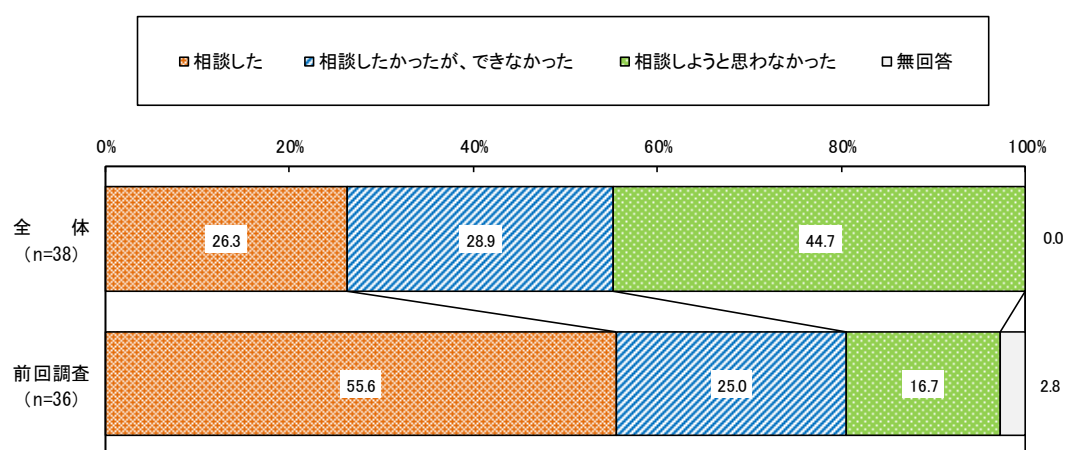
<全体結果>

ドメスティック・バイオレンスについて、「自分自身や友人・知人で被害を受けた人はいない」の割合が最も高く、5割強となっている。「友人・知人で被害を受けた人がいる」が約1割で続くが、その他の項目は1割に満たない。

前回調査と比べると、「自分自身や友人・知人で被害を受けた人はいない」の割合が増加している。

(5) 被害を受けたときの相談経験の有無

問 13② 問 13①で「自分が被害を受けた」と回答した方におたずねします。
被害を受けたときに相談しましたか。



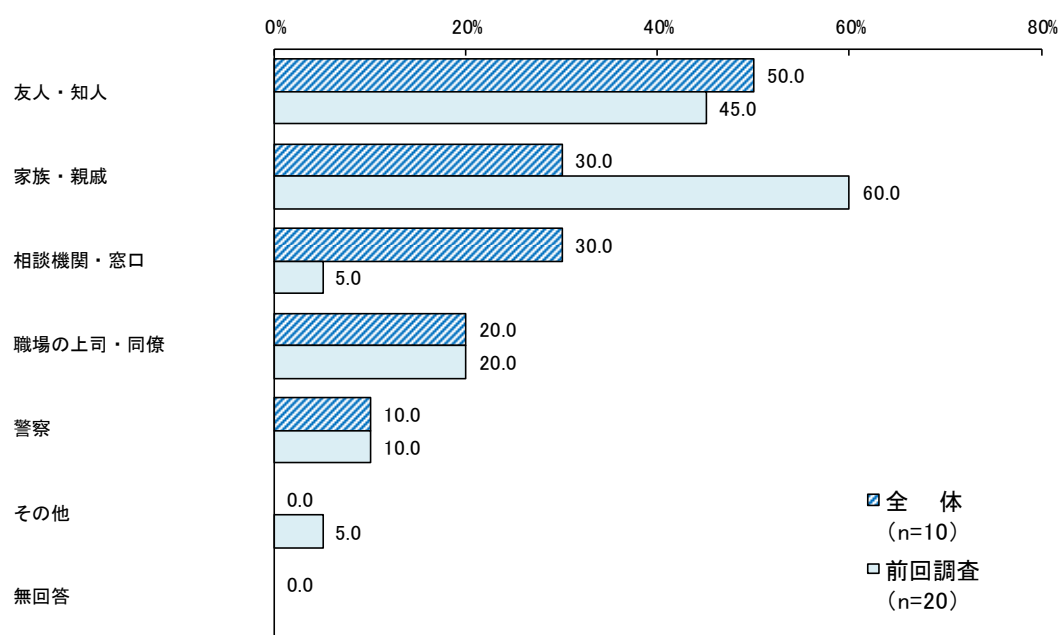
<全体結果>

被害を受けたとき、「相談しようと思わなかった」と回答した割合が最も高く、4割強となっている。以下、「相談したかったが、できなかった」と「相談した」が3割弱で続いている。

前回調査と比べると、「相談した」の割合が大きく減少し、「相談しようと思わなかった」の割合が大きく増加している。

(6) 被害を受けたときの相談先

問 13③ 問 13②で「相談した」と回答した方におたずねします。
被害を受けたとき、誰（どこ）に相談しましたか。



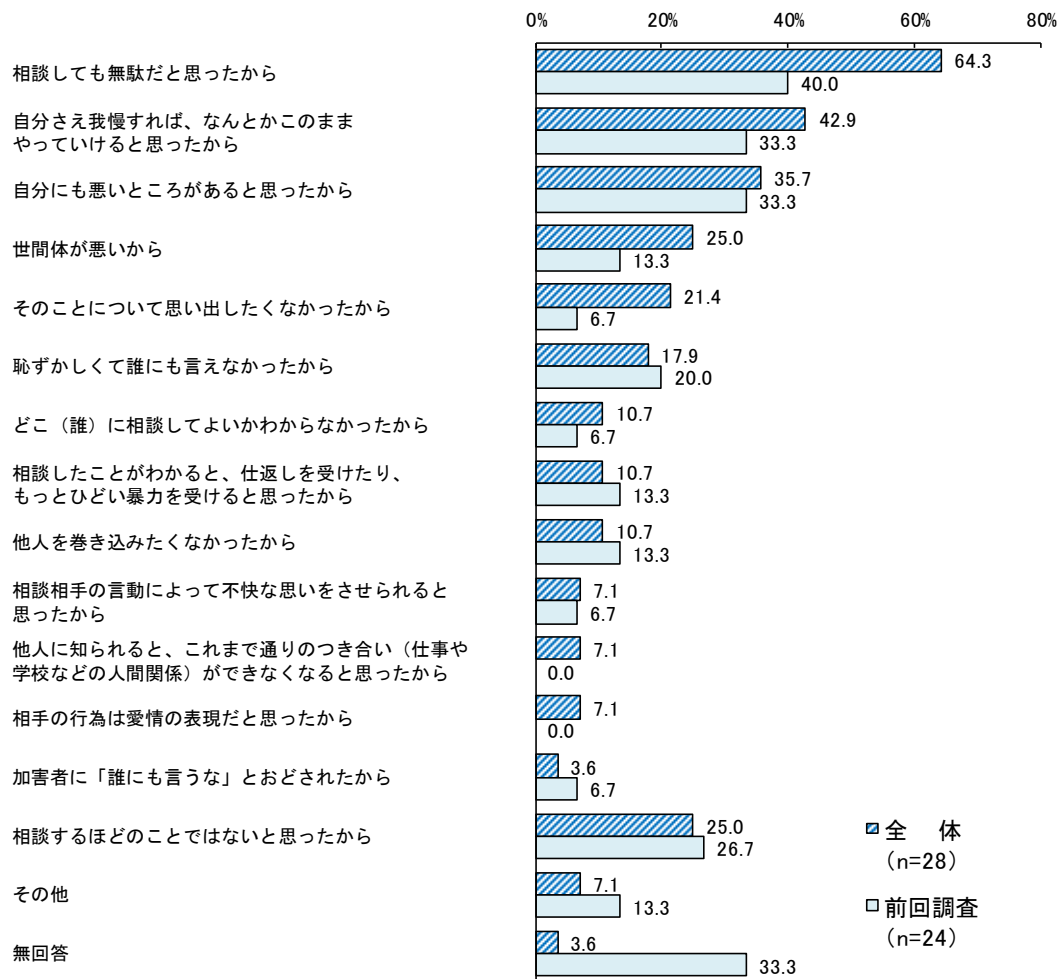
<全体結果>

被害を受けたときの相談先として、「友人・知人」をあげる人が最も多く、5割となっている。次いで「家族・親戚」と「相談機関・窓口」が3割、「職場の上司・同僚」が2割となっている。

前回調査と比べて、「友人・知人」と「相談機関・窓口」が増加し、「家族・親戚」が大きく減少している。

(7) 相談しなかった理由

問13④ 問13②で「相談したかったができなかった」または「相談しようと思わなかった」と回答した方におたずねします。
相談しなかった理由は何ですか。



<全体結果>

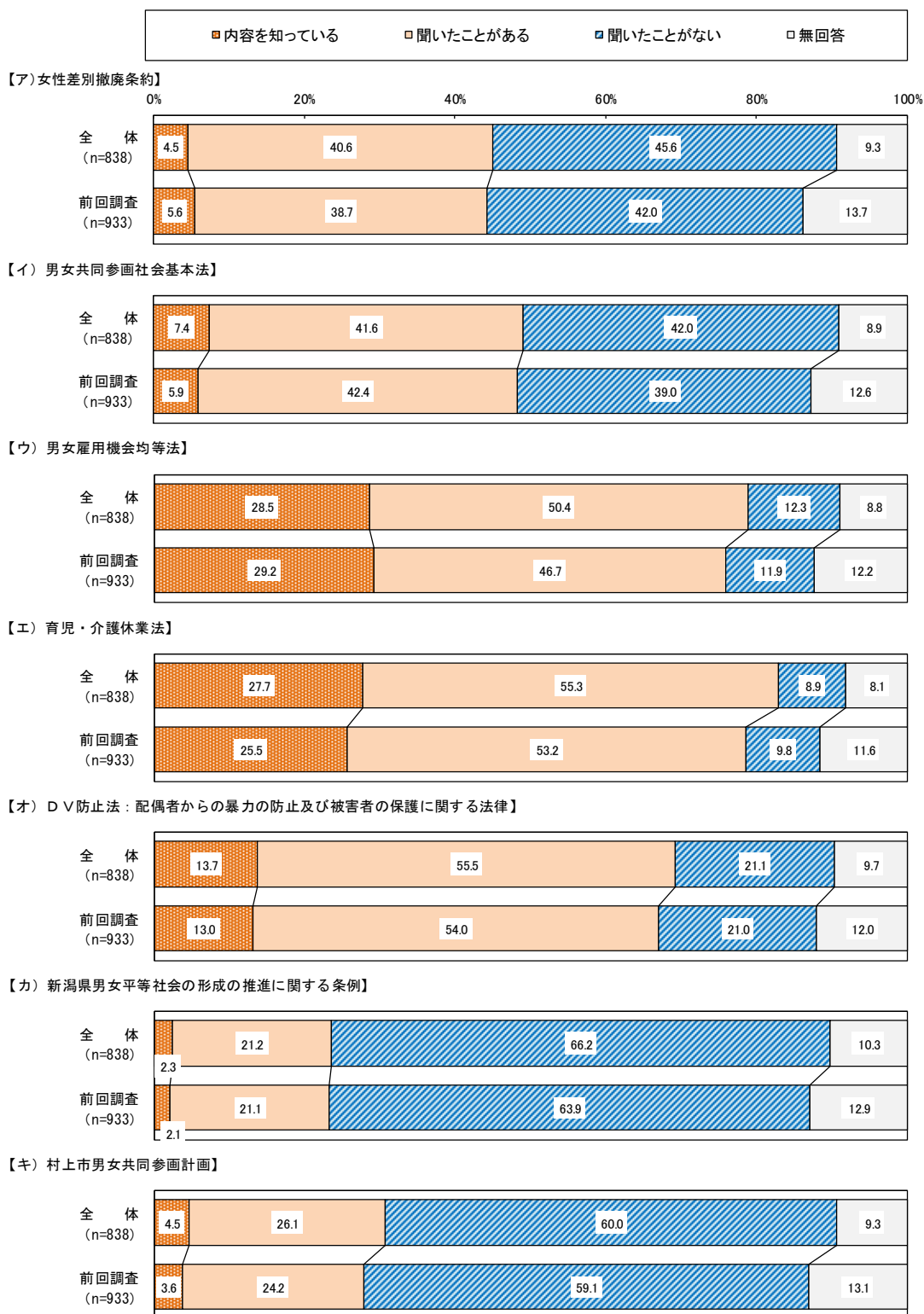
相談しなかった理由としては、「相談しても無駄だと思ったから」と考える人が最も多く、6割強となっている。以下、「自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」が4割台、「自分にも悪いところがあると思ったから」が3割台、「世間体が悪いから」と「そのことについて思い出したくなかったから」が2割台となっている。

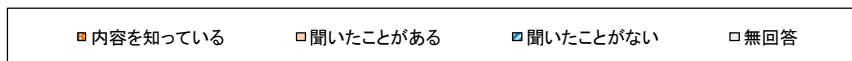
前回調査と比べると、「相談しても無駄だと思ったから」、「そのことについて思い出したくなかったから」、「世間体が悪いから」が大きく増加している。

9 男女共同参画の推進について

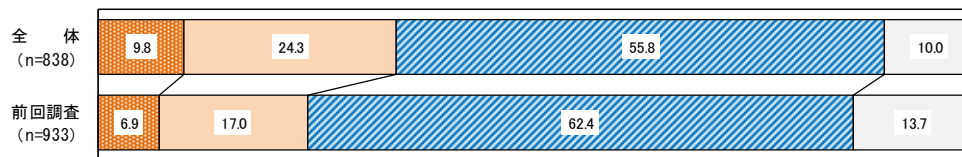
(1) 法律や制度の認知度

問 14 あなたは、次に挙げる法律や制度の名称などについてご存知ですか。

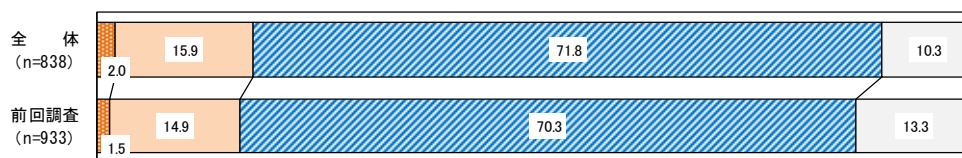




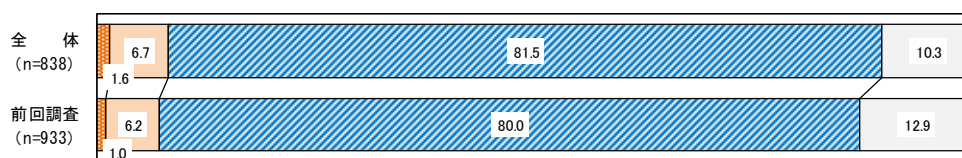
【ク）ジェンダー（社会的性別）】



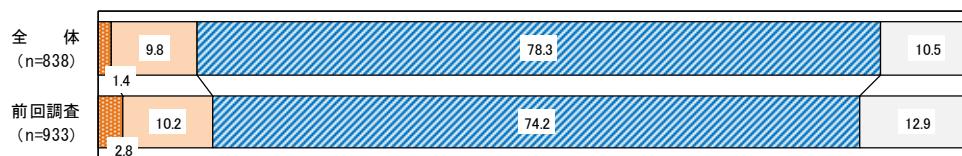
【ケ）ポジティブ・アクション(積極的改善措置)】



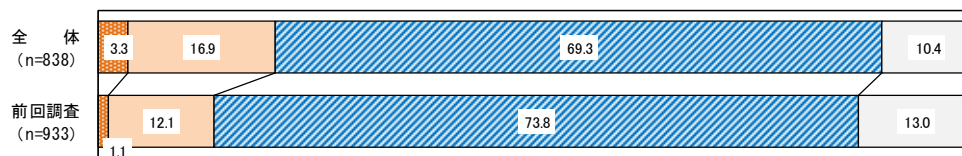
【コ）リプロダクティブ・ヘルス/ライツ（性と生殖に関する女性の健康と権利）】



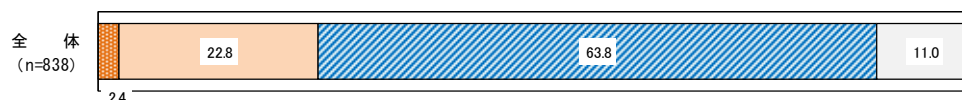
【サ）家族経営協定】



【シ）ハッピー・パートナー企業】



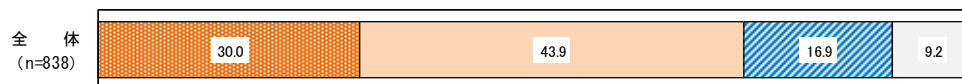
【ス）女性活躍推進法（女性の職場生活における活躍の推進に関する法律）】



【セ）イクボス（従業員や部下の育児参加における活躍の推進に関する法律）】



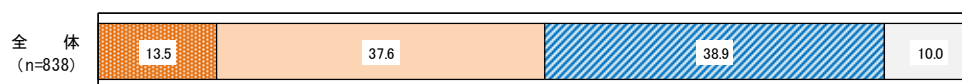
【ソ）マタニティ・ハラスメント（働く女性が妊娠・出産を理由に職場で受ける嫌がらせ）】



【タ）パタニティ・ハラスメント（育児のため休暇などを希望する男性が、職場で受ける嫌がらせ）】



【チ）ワーク・ライフ・バランス（家庭と生活の調和）】



＜全体結果＞

法律や制度の認知度について17項目で調査した。

「内容を知っている」では、【ソ）マタニティ・ハラスメント（働く女性が妊娠・出産を理由に職場で受ける嫌がらせ）】の割合が最も高く、3割を占めている。次いで、【ウ）男女雇用機会均等法】、【エ）育児・介護休業法】が3割弱となっている。

「聞いたことがある」では、【オ）DV防止法：配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律】、【エ）育児・介護休業法】、【ウ）男女雇用機会均等法】の順で割合が高く、いずれも5割台となっている。

一方、「聞いたことがない」では、【コ）リプロダクティブ・ヘルス/ライツ（性と生殖に関する女性の健康と権利）】の割合が最も高く、8割を超えている。以下、【サ）家族経営協定】、【ケ）ポジティブ・アクション（積極的改善措置）】が7割台、【シ）ハッピー・パートナー企業】、【カ）新潟県男女平等社会の形成の推進に関する条例】、【ス）女性活躍推進法（女性の職場生活における活躍の推進に関する法律）】、【キ）村上市男女共同参画計画】が6割台で続いている。

前回調査と比べると、【ク）ジェンダー（社会的性別）】で「聞いたことがある」の割合が増加し、「聞いたことがない」の割合が減少している。

◆前回調査の全体結果と比較して、傾向変化がみられたのは…

① 女性差別撤廃条約

前回結果と比べ、特に大きな差は見られない。

⑥ ジェンダー（社会的性別）

前回結果と比べ、「聞いたことがある」が増加し、「聞いたことがない」が減少している。

⑦ ポジティブ・アクション（積極的改善措置）

⑩ 家族経営協定

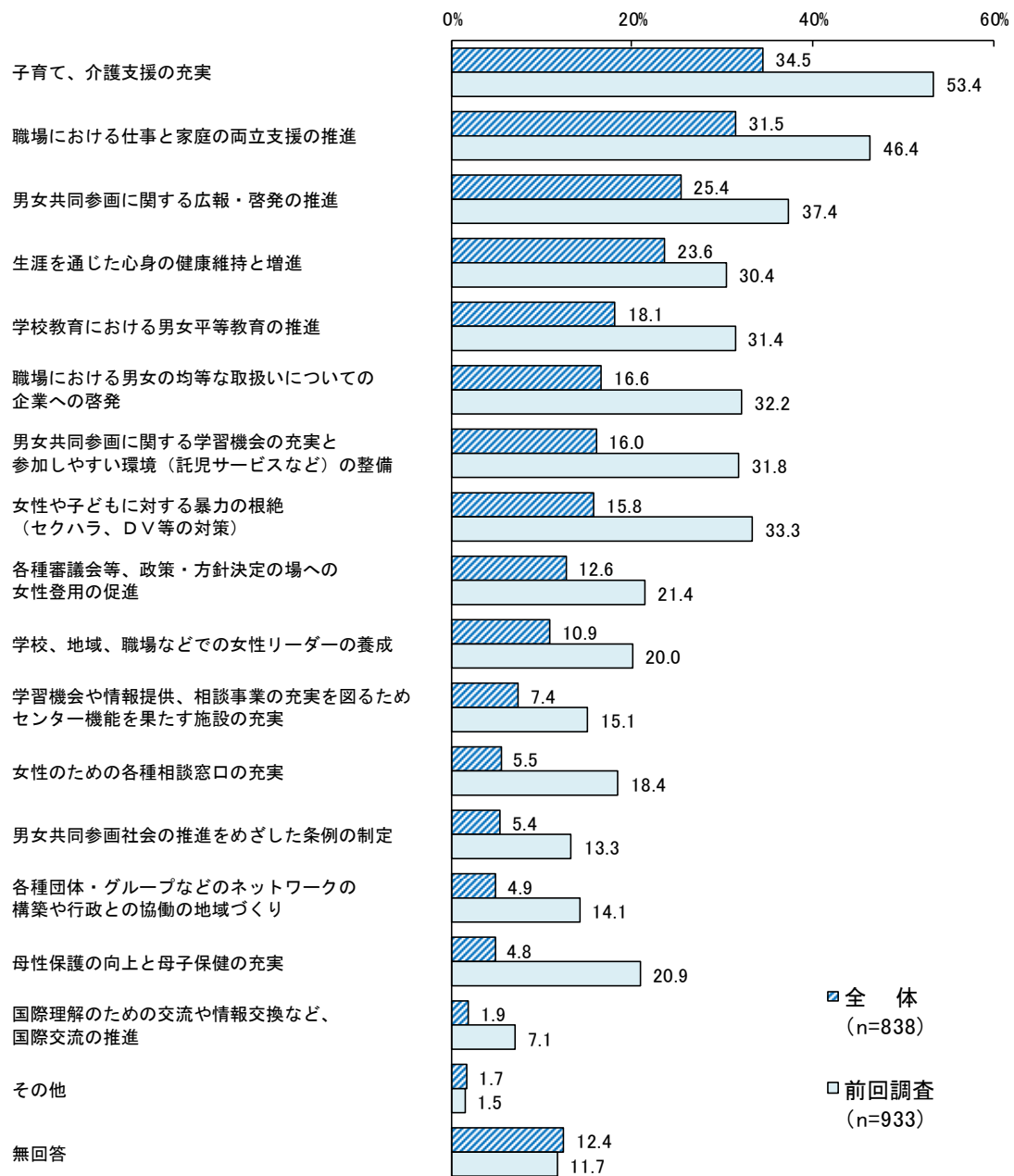
前回結果と比べ、「聞いたことがない」の割合が、やや増加している。

⑫ ハッピー・パートナー企業

前回結果と比べ、「聞いたことがある」の割合はやや増加し、「聞いたことがない」の割合はやや減少している。

(2) 男女共同参画社会推進のために、今後市が力を入れていくべきこと

問 15 あなたは「男女共同参画社会」を推進していくために、村上市は、今後どのような施策に力を入れていくべきだと思いますか。次の中からお選びください。



＜全体結果＞

男女共同参画社会を推進していくために、村上市は「子育て、介護支援の充実」に、最も力を入れてほしいと考える人が多く、3割強となっている。次いで、「職場における仕事と家庭の両立支援の推進」が3割台、「男女共同参画に関する広報・啓発の推進」、「生涯を通じた心身の健康維持と増進」が2割台などとなっている。

前回調査と比べると、「子育て、介護支援の充実」が第1位であるのは同じだが、すべての項目で割合が減少している。